

第4編

困ったときには

- 1 . 困ったときのQ&A..... 216
- 2 . お問い合わせ・アフターサービスについて..... 239
- 3 . AtermIW50/Dに接続したパソコンで
インターネットの接続がうまくいかなかったとき.. 249

1. 困ったときのQ&A

Atermを使っていてトラブルが起こったり、疑問に思うことがありましたらこちらを参照してください。

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
正常に動作しない原因がよくわからない	-	<p>Atermが正常に動作しない場合、原因は設定に誤りがあることが多いようです。Atermをいったん工場出荷状態の設定にもどして、あらためて設定しなおすことをおすすめします。ただし、すべての設定値が工場出荷状態にもどるので、ご注意ください。</p> <p>受話器を上げる <input type="button" value="*"/> <input type="button" value="*"/> <input type="button" value="9"/> <input type="button" value="8"/> <input type="button" value="*"/></p> <p>受話器を置く</p> <p>前面のファンクションボタンを使用して工場出荷状態にもどすこともできます。</p>	<p>P.211</p> <p>P.277</p>
電源を入れたとき	<p>1. POWERランプが点灯しない</p> <p>または</p> <p>液晶ディスプレイに何も表示されない</p>	<p>電源コードがはずれている</p> <p>電源コードを電源コンセントに差し込んでください。</p> <p>電源が入っていない</p> <p>電源スイッチの「-」（ON）を押した状態にしてください。</p> <p>電源コードがパソコンのコンセントに差し込まれているときは、パソコンの電源を入れないと電源が入りません</p> <p>パソコンのコンセント（サービスコンセント）にAtermの電源を差し込まないでください。Atermに電池を入れている場合、パソコンの電源を切ると停電モードになり、電池が消耗します。</p>	<p>P.41</p> <p>P.42</p> <p>P.41</p>
	<p>2. MSGランプが点滅している</p>	<p>BIGLOBEのメール着信通知サービスに加入している場合は、電子メールが届いたことをお知らせしています。</p> <p>UIメールが届いたことをお知らせしています。</p> <p>『UIメールEX』を使って消灯させることができます。</p> <p>または、電話機の手話器を上げて、<input type="button" value="*"/> <input type="button" value="*"/> <input type="button" value="0"/> とダイヤルすると消灯します。</p>	<p>P.150</p>

Windows®98 は Microsoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95 は Microsoft® Windows®95 operating system の略です。

WindowsNT®4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system Version 4.0の略です。

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
電源を入れたとき	3. BIGLOBEのメール着信通知サービスに加入しているのに、電子メールが届いてもMSGランプが点滅しない	<p>BIGLOBEの通知表示名と『UUIメールEX』で設定した通知表示名が同じか確認してください。また、BIGLOBE側の設定で電話番号とオプション設定を確認してください。</p> <p>INSネット64の契約を「ユーザ間情報通知：許可」にしていますが、自分あてにUUIメールを出して、MSGランプが点滅するかどうか確認してください。点滅すれば契約は問題ありません。</p> <p>リモートステーション（AtermRS20など）では利用できません。</p> <p>データポートに着信番号が通知するように設定されているか、らくらくユーティリティなどで確認してください。</p>	<p>P.155</p> <p>P.151</p> <p>P.178</p>
	4. 通信していないのにSD/RDランプが点灯する	<p>DOS/V機などを使用している場合で、誤ってパソコンのプリンタポート（25ピンコネクタ）に接続している</p> <p>接続しているパソコンのコネクタがCOMポート（シリアルポート）かどうか、パソコンの取扱説明書で確認してください。</p> <p>一部のパソコンでは、パソコンの電源を切ってもSD信号を出している機種があります</p> <p>パソコンの電源コードを抜けば消えます。通信に支障がなければそのままお使いください。</p>	
	5. 液晶ディスプレイに「カイセンショウガイレイヤ1ダウン」と表示される	<p>INSネット64の同期がとれていません</p> <p>回線ケーブルがはずれている</p> <p>Atermに添付のINS回線ケーブルでAtermと回線用コンセント（またはローゼット）を接続してください。</p>	P.39
		<p>回線の極性が反転している</p> <p>背面の回線リバーススイッチ（RVS/NOR）を反対側にしてください。</p>	P.43
		<p>INSネット64への切り替えが完了していない</p> <p>INSネット64への切り替えが完了しているか、正常に動作するかをNTT東日本またはNTT西日本に確認してください。</p> <p>アナログ電話回線からINSネット64に契約を変更した場合は、回線にガスの自動検針器が接続されたままになっている場合があります</p> <p>ガス供給業者に問い合わせ、接続されている場合は撤去してもらってください。</p>	P.24

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
電話が使えないとき	3. 電話がかかれられない	<p>パソコンで128kbpsマルチリンクPPP通信している 128kbpsマルチリンクPPP通信をおこなうとBチャンネルを2つ使用するので、電話はかけられません。「リソースBOD」の設定をしておくことをおすすめします。</p> <p>パソコンから電話をかけるアプリケーションを使用している場合に電話がかかれられないときは、Atermとの接続に誤りがある アナログポートにモデムを接続してください。</p>	P.144 P.38
	4. 電話をかけたときに相手とつながるまでが長くなった	<p>ダイヤル桁間タイマがはたらいて、最後にダイヤルしてから発信するまで5秒以上かかっています</p> <p>ダイヤル後、[#] を押すとすぐに発信します。</p>	P.90
	5. LCR機能付き電話機を使用したときに電話がかかれられない	<p>LCR機能付き電話機を使用しているとダイヤルしている途中で発信することがあります</p> <p>ダイヤル桁間タイマを5秒（初期値）より長くします。</p> <p>受話器を上げる [*][*][1][*][1][*][0][7][*][2][#][#] 1)1 : Aポート 2)1 : 9秒 2 : Bポート 2 : 11秒 3 : 13秒</p> <p>受話器を置く</p>	W: P.175 M: P.196 T: P.206
	6. 受話器を上げてても無音である または かかってくるときに着信音は鳴るが、受話器を上げてても通話ができない または かけたときに相手が応答すると通話が切れる	<p>電話機が秘話回路を内蔵していることが考えられます</p> <p>秘話回路とはブランチ接続（1つのアナログポートに複数台の電話機が接続されること）されている電話機の1台が使用中に、他の電話機が回線を使わないようにする回路です。 ブランチ電話機使用中の検出電圧が高いと秘話回路がはたらくことがあります。 電話機の取扱説明書をご覧の上、秘話回路を使用しないようにしてください。</p>	

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh T=電話機

こんなとき	症状	原因と対策	参照 ページ
電話が使えないとき	7. 電話の着信音が鳴らない	<p>原因は様々なことが考えられますが、一般的には、設定に誤りがあることが多いようです。次の内容を参照し、原因を追及してください。</p> <p>また、工場出荷状態ではすべてのアナログポートが呼び出されるように設定されており、設定によって着信条件を変更していきます。Atermを工場出荷状態の設定にもどして、呼び出されることを確認してから再度設定するのもよい方法です。その際、すべての設定値が工場出荷状態にもどるので、ご注意ください。</p>	P.235
		<p>グローバル着信の設定が間違っている</p> <p>INSネット64で契約した「グローバル着信」を利用する/しないの内容にAtermの設定を合わせてください。</p>	P.83
		<p>優先着信ポートが指定されている</p> <p>指定されたアナログポートが空いていると、そのアナログポートだけが呼び出されます。使用中のときのみ、他のアナログポートが呼び出されます。</p> <p>必要がなければ、設定しないでください。</p>	P.103
		<p>識別着信（INSなりわけ、疑似識別着信）が設定されている</p> <p>識別着信が設定されていると、登録した相手からの着信以外は応答しくなくなります。</p> <p>必要でなければ識別着信は設定しないでください。</p>	P.107
		<p>お出かけ設定（おやすみモード、電話着信転送モード、ボイスワープ転送モード、フラッシュモード）が設定されている</p>	
		<p>お出かけ設定のおやすみモードやフラッシュモードに設定してあると着信音は鳴りません。電話着信転送モード（INS着信転送、疑似着信転送）やボイスワープ転送モードが設定されていると、設定した転送条件のときだけ着信音が鳴らずに転送されます。</p> <p>鳴らすときは設定を解除してください。</p>	P.118
		<p>サブアドレスが違っている</p> <p>相手が指定したサブアドレスが、Atermに設定してあるサブアドレスと違っています。サブアドレスを使用しないのであれば、サブアドレスを指定せずに、「サブアドレスなし着信する」を設定してください。</p>	P.132
		<p>HLC（高位レイヤ整合性）が一致しない</p> <p>INSネット64に接続されている相手がHLCを指定してきたが、Atermに設定しているHLCと違っています。「設定しない」にしてください。</p>	P.134

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
電話が使えないとき	7. 電話の着信音が鳴らない	<p>アナログポートを i・ナンバーまたはダイヤルイン番号で呼び分ける場合の、呼び分けの設定が正しくされていない</p> <p>再度設定してください。</p> <p>Mac OS 8.0内蔵のCCLファイルでインターネットアクセスをしている場合、設定値が初期化されている</p> <p>添付CD-ROMに入っているCCLファイルと置き替えてください。</p>	P.74
	8. 電話の着信音が短く鳴り、受話器を上げると切れる または ファクスの信号のような音がする	<p>ナンバー・ディスプレイ、モデム・ダイヤルイン、アナログ・ダイヤルイン対応の電話機を接続していないのに、ナンバー・ディスプレイ、モデム・ダイヤルイン、アナログ・ダイヤルインの設定をしている</p> <p>情報通知サービスを「使用しない」に設定してください。</p>	W: P.174 M: P.195 T: P.207
	9. 留守番電話機などで相手が受話器を置いても電話が切れない	<p>留守番電話機が回線切断時のリバースパルスを検出して切断する機能をもっている場合、相手切断時にAtermからリバースパルスを出す設定にします</p> <p>受話器を上げる</p> <p>* * 1 * 【1】 * 1 3 * 【2】 # #</p> <p>1) 1: Aポート 2) 1: リバースパルスを出す 2: Bポート 0: リバースパルスを出さない</p> <p>受話器を置く</p>	
10. 電話が転送できない	携帯電話やPHSに転送する場合、圏外になっていると転送できません		
PHSが使えないとき	1. PHSのアンテナマークがつかない	<p>AtermとPHSのID登録が済んでいない</p> <p>お近くのNECサービスステーションまたはPCクリーンスポット、お買い求めの販売店にご相談ください。</p> <p>PHSの待ち受けモードが正しく設定されていない</p>	P.243
		<p>Atermの子機コードレスとして使用する場合、PHSの待ち受けモードをオフィス（構内）モードにします。PHSの取扱説明書を参照の上、オフィスモードにしてください。</p>	P.25

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh T=電話機

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
PHSが使えないとき	1 . PHSのアンテナマークがつかない	<p>Atermの電源が入っていない</p> <p>AtermのPOWERランプとPHSランプが点灯していることを確認してください。なお、電源を入れてからPHSのアンテナマークがつくまで、しばらく時間がかかります。</p> <p>AtermとPHSの距離が離れすぎている</p> <p>無線の使える範囲は見通し距離で約100mですが、住宅の構造や家具、電子機器などの配置により通話距離が短くなります。Atermに近づけて確認してください。</p> <p>2台以上同時にPHSを使っている。または、他のリモートステーションでデュアルリンクワイヤレス通信を使用している</p> <p>Atermで同時に使えるのは無線2ポートまでです。他のPHSが使用中でないか確認してください。AtermのPHSランプが赤色に点滅している場合は、無線ポートが2ポートとも使用中の状態です。他のPHSの通話が終わるのを待ってご使用ください。</p>	P.48
	2 . PHSから電話がかげられない	<p>PHSのアンテナマークはついていますが</p> <p>「PHSが使えないとき」の1 . を参照してください。</p> <p>無線ポートの設定は正しいですか</p> <p>「IW50らくらくユーティリティ」で、「無線ポート」設定を「電話」に設定してください。</p> <p>Atermの他のポートが通信中、または相手が使用中ではないですか</p> <p>PHSの 通話 ボタンを押してダイヤルトーン（ツー）を確認してください。回線が使用中の場合は、話中音（ブーブーブー）が聞こえます。</p> <p>PHSの一括発信（ダイヤル番号を押してから 通話 ボタンを押す方法）で、すぐに発信するための最後の # を入れている</p> <p>PHSでは一括発信時の # は使えません。一括発信時は # のかわりに 通話 ボタンを使いますので、相手先番号のみ押してください。</p> <p>近くで複数のデジタルコードレス電話機が使われている</p> <p>他のデジタルコードレス電話機が近くで使われている場合、電波の干渉によりうまく接続できないことがあります。しばらく待ってからかけ直してください。</p>	P.222 W : P.181 M : P.196 P.89

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0

M=Macintosh

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
PHSが使えないとき	2. PHSから電話がかげられない	Atermの電源が入っていない Atermの電源が切れてからPHSのアンテナマークが消えるまでには、しばらく時間がかかります。AtermのPOWERランプとPHSランプが点灯しているか確認してください。	P.48
	3. PHSからデータ通信ができない	PHSのアンテナがついていない 「PHSが使えないとき」の1.を参照してください。 Atermのデータポートが使用中である データポート使用中は、無線ポートからのプロトコル変換モードは使えません。同時に使用したい場合は、「PIAFSスルーモード」に設定を変え、PIAFS対応のアクセスポイントに接続してください。 他のPHSやリモートステーションがプロトコル変換モードを使用中である 他の無線ポートがプロトコル変換モードの通信中には、プロトコル変換モードは使えません。他の無線ポートの通信が終わるの待ってご使用ください。 公衆のキャリア（NTTパーソナルやアステル）が提供しているサービスに、Aterm経由でアクセスしている PIAFSネットやPTEサービスにINSネット64経由でアクセスすることはできません。公衆モードでアクセスしてください。 他のPHSやリモートステーションが使用中である 内線データ通信はできません。	P.227 P.136
リモートステーションが使えないとき	1. PHSランプが赤点灯である	Atermとリモートステーションの増設登録（ID登録）が済んでいない お近くのNECサービスステーションまたはPCクリーンスポット、お買い求めの販売店にご相談ください。	P.243
	2. PHSランプが消灯している	Atermとリモートステーションの距離が離れすぎている 無線の使える範囲は見通し距離で約100mですが、住宅の構造（鉄筋壁、防音壁、断熱壁）や家具、電子機器などの配置により通話距離が短くなります。 Atermに近づけて確認してください。	P.22

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
リモートステーションが使えないとき	3. PHSランプが赤点滅である	<p>すでに2台同時にPHSを使っている。または、他のリモートステーションでデュアルリンクワイヤレス通信を使用している</p> <p>Atermで同時に使えるのは無線2ポートまでです。他のPHSが使用中でないか確認してください。PHSランプが赤色に点滅している場合は、無線ポートが2ポートとも使用中の状態です。他のPHSの通話が終わるのを待ってご使用ください。</p>	
	4. リモートステーションのアナログポートの電話が使えない	<p>リモートステーションのPHSランプが緑色に点灯していますか？</p> <p>「リモートステーションが使えないとき」の1.の原因と対策を参照してください。</p> <p>無線ポートの設定が正しくない リモートステーションの登録されているポート設定が「使用しない」または「データ専用」になっている</p> <p>「PHS」または「リモートステーション」に設定してください。</p> <p>リモートステーションのデータポートを使用中である リモートステーションは、データポートとアナログポートを同時に使用できません。 データポートの通信が終わってから、ご使用ください。</p> <p>リモートステーションのもう一方のアナログポートが使用中である</p> <p>リモートステーションのアナログA/Bポートを同時に使用することはできません。 もう一方の電話が終わってからご使用ください。</p>	<p>W : P.181</p> <p>M : P.197</p>
	5. リモートステーションのデータポートが使えない	<p>リモートステーションのPHSランプが緑に点灯していますか？</p> <p>「リモートステーションが使えないとき」の1.を参照してください。</p> <p>リモートステーションのアナログポートを使用中である</p> <p>リモートステーションは、アナログポートとデータポートを同時に使用できません。 アナログポートの通話が終わってからご使用ください。</p>	P.227

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
リモートステーションが使えないとき	5. リモートステーションのデータポートが使えない	Atermのデータポートが使用中、またはPHSなど他の無線ポートが使用中である Atermのデータポート使用中および他の無線ポート使用中は、デュアルリンクワイヤレス通信やプロトコル変換モードのデータ通信はできません。 同時に使用する場合は、デュアルリンクワイヤレス通信をOFFにして、PIAFSスルーモードに設定を変えてPIAFS対応のアクセスポイントに接続してください。	P.136
	6. デュアルリンク通信ができない	電話番号の末尾にDLをつけてください。 例 「03XXXX2222」に接続 03XXXX2222DL Windowsをお使いの場合は、ダイヤルアップネットワークの「接続するアイコンのプロパティ」で「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックをはずしてください。	P.139 P.256
お出かけ設定ができないとき	でかけるボタンを押してもランプが点灯しない	でかけるボタンをロックする設定にしている (SELECT) ボタンと  ボタンを同時に押してロックする設定を解除してください。	P.118
ファクス通信ができないとき	1. ファクス通信ができない	電話が使えないときの症状が当てはまる場合があります。「電話が使えないとき」を参照してください。 相手のファクスがG4タイプのファクスである アナログポートに接続したファクスは、G3モードに対応していないG4タイプのファクスとは通信できません。 ファクスの回線種別を自動選択する機能がONになっている INSネット64に接続したターミナルアダプタでは、ファクスの回線種別を自動選択する機能は使用できません。ファクスの取扱説明書を参照し、手動で回線種別を選択してください。回線種別はトーン(PB)にします。	P.218
		データポートからファクス通信はできません アナログポートに接続してご使用ください。	P.38
	2. 着信できない	アナログポートの設定が「電話」になっている 「ファクスまたはモデム」に設定します。 受話器を上げる  1: Aポート 2: Bポート 受話器を置く	P.45

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh T=電話機

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
<p>らくらくウィザード、らくらくユーティリティ、らくらくバージョンアップが起動しないとき</p>	<p>1. COMポートは他のプログラムで使用されています。…」</p> <p>または</p> <p>「モデムは他のプログラムで使用中です。…」と表示される</p>	<p>COMポート（シリアルポート）やモデムポート、プリンタポートを使用する他のアプリケーションが起動している</p> <p>そのアプリケーションを終了してください。 通信アプリケーションで着信待ちの状態に設定されている場合もあるので、着信待ちをいったんはずしてください。</p> <p>IW50らくらくウィザード、IW50らくらくユーティリティ、IW50らくらくバージョンアップを同時に使用しようとした</p> <p>同時には動作できません。</p> <p>データポートやPHSを使用して通信中である</p> <p>通信を終了してください。</p> <p>ダイヤルアップサーバを起動している</p> <p>ダイヤルアップサーバを終了してください。</p>	
	<p>2. 「Aterm IWが見つかりません。…」</p> <p>または</p> <p>「Aterm IWが接続されているポートが見つかりません。…」と表示される</p>	<p>Atermの電源スイッチが入っていない</p> <p>電源スイッチの「-」（ON）を押した状態にしてください。</p> <p>Atermとパソコンを接続しているケーブルがはずれている</p> <p>ケーブルを正しく接続してください。</p> <p>P.40</p> <p>パソコンのプリンタポートなどに誤って接続している</p> <p>接続しているパソコンのコネクタがCOMポート（シリアルポート）かどうかを、パソコンの取扱説明書で確認してください。</p> <p>パソコンにモデムが内蔵されている場合、モデムが占有しているCOMポート（シリアルポート）またはモデムポート、プリンタポートにAtermを接続している</p> <p>別の空いているCOMポートまたはモデムポート、プリンタポートに接続してください。</p> <p>リモートステーションからAtermIW50/Dの設定をすることはできません。</p>	<p>P.42</p> <p>P.40</p>

こんなとき	症状	原因と対策	参照 ページ
らくらくウィザード、らくらくユーティリティ、らくらくバージョンアップが起動しないとき	<p>3. IW50らくらくバージョンアップが失敗した</p> <p>または</p> <p>POWERランプが赤点滅し、液晶ディスプレイに「ローダモードA」と表示している</p>	<p>バージョンアップの途中でAtermとパソコンを接続するケーブルが抜けた</p> <p>接続ケーブルを正しく接続した後、再度らくらくバージョンアップでバージョンアップしてください。バージョンアップできないときは、強制ダウンロードモード(*1)を実行してください。</p> <p>* 1 強制ダウンロードモード らくらくバージョンアップでバージョンアップできないときに実行する手順です。次の手順でバージョンアップをします。</p> <p>(1) Atermの電源を切り、Aterm底面の設定スイッチを「8」に合わせる。</p> <p>(2) (MENU) (SELECT) (ENTER) ボタンを同時に押しながら電源を入れ、そのまま5秒以上ボタンを押しつづける。POWERランプが赤点灯するのを確認する。</p> <p>(3) 表示が「ローダモードA」になるのを確認する。</p> <p>(4) らくらくバージョンアップを起動し、画面に従って通常どおりバージョンアップする。</p> <p>(5) バージョンアップが終了したら、設定スイッチを「0」にもどす。</p> <p>バージョンアップするファームウェアのファイル間違えた</p> <p>ファームウェアがバージョンアップしようとしている機種のもので確認してください。バージョンアップできないときは、強制ダウンロードモード(*1)を実行してください。AtermStationからダウンロードした圧縮ファイルを解凍せずに使用していませんか。解凍してから使用してください。</p>	<p>W: P.319</p> <p>M: P.323</p> <p>P.327</p> <p>W: P.319</p> <p>M: P.323</p>
	MacintoshでIW50らくらくユーティリティが起動しない	「システム」フォルダの「初期設定」フォルダの中の「IW50.ini」と「IW50.tel」ファイルを捨て、パソコンを再起動します。そのあと再度IW50らくらくユーティリティを起動してみてください。	
データ通信ができないとき	接続できない	<p>回線が空いていない</p> <p>電話を2台同時に使用するなど、回線が空いていない場合は接続できません。回線が空いてから接続し直してください。</p> <p>パソコンとケーブルが正しく接続されていない</p> <p>パソコン側の接続ポートを間違えていませんか。ケーブルはしっかり差し込まれていますか。確認してください。</p>	P.40

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh T= 電話機

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
インターネットがうまくいかないとき	1. 接続できない (つづき)	<p>同期64kと非同期のアクセスポイントが異なることが多くあります。使用するモデム定義ファイル (Windows)、CCLファイル (Macintosh) に合わせたアクセスポイントの電話番号にかけてください。 (切断理由 #001~003、028、029、031)</p> <p>ユーザIDとパスワードが間違っている (切断理由 #016)</p> <p>プロバイダから発行されたユーザIDやパスワードを確認してください。 設定値は半角になっているか確認してください。</p> <p>DNSサーバアドレスの番号が間違っている (切断理由 #016)</p> <p>プロバイダが推奨するDNSサーバアドレスを設定してください。</p> <p>Windows98/Windows95の場合、TCP/IPが二重に登録されている (切断理由 #016)</p> <p>既にTCP/IPがあればインストールは不要です。 複数インストールされていると接続できなくなるので、1つだけ残して他は削除してください。</p> <p>「サーバーの種類で互換性のあるネットワークプロトコルの処理ができませんでした。ダイヤルアップネットワークの設定を再度やり直してください」と表示されるのは、Windows95でPC-9800シリーズのパソコンのシリアルポートドライバが古いのが原因です。</p> <p>シリアルポートドライバ作成日を確認してから、必要であればアップデートします。アップデートしないと通信速度を38.4kbps以上にすることができません。以下の手順で実行してください。</p> <p>(1) Windows95を起動し スタート [検索] [ファイルやフォルダ]の順に選択します。</p> <p>(2) 「探す場所」にハードディスクを選択して名前に「SER8251F.VXD」を入力し、検索を開始します。</p> <p>(3) SER8251F.VXD (シリアルポートドライバ)の更新日時が95/11/18よりも古い場合には、次のURLで最新のシリアルポートドライバを入手し、アップデートしてください。 通信速度を19.2kbps以下にすると、インターネットへのアクセスは可能です。 http://www.microsoft.com/japan/win95/modules/98_158.htm http://www.microsoft.com/japan/win95/modules/98_246.htm (最新版) を検索してください。このファイルは一度ダブルクリックし、再起動するだけで、アップデートされます。</p>	<p>W : P.61</p> <p>M : P.69</p> <p>P.254</p>

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0

M=Macintosh

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
インターネットがうまくいかないとき	1. 接続できない	<p>ダイヤルアップネットワークの設定が間違っている</p> <p>ダイヤルアップネットワークのプロパティで、サーバの種類の詳細オプションはすべてチェックをはずします。</p> <p>Windows95は「ネットワークへのログオン」「ソフトウェア圧縮をする」「暗号化パスワードを使う」、Windows98は「データの暗号化を使用する」「この接続のログファイルを記録する」の項目があります。</p> <p>また、使用できるプロトコルもネットワークプロトコルでTCP/IPのみにします。</p> <p>さらに「TCP/IP設定」ボタンをクリックし、「IPヘッダー圧縮を使う」のチェックをはずしてください。リモートネットワークで既定値の「ゲートウェイを使う」はそのままです。</p>	P.255
		<p>モデム定義ファイルがない</p> <p>Windows95からWindows98にバージョンアップした場合は、すでに組み込んであったモデム定義ファイルが削除されることがあります。「モデム情報をインストールする」を参照して組み込んでください。</p>	P.249
		<p>WindowsNT4.0の場合で、ポートの使い方が「ダイヤルアウトのみ」以外になっている</p> <p>「リモートアクセスサービスを設定する」の⑨で「ダイヤルアウトのみ」に設定すると発信専用になります。着信も受け付けたい場合は、「ダイヤルアウトと着信」を選択してください。ただし、「ダイヤルアウトと着信」にするとRAS着信待ちになり、COMポートを占有するため、らくらくユーティリティが起動できなくなります。この場合は、いったん「ダイヤルアウトのみ」に切り替えてからおこなってください。らくらくユーティリティ設定後、「ダイヤルアウトと着信」にもどしてください。</p>	P.265
		<p>MacintoshのPerformaシリーズの場合、A/ROSEのチェックがはずれていない</p> <p>[アップル]メニュー [コントロールパネル] [機能拡張マネジャー]の「A/ROSE」のチェックをはずしてください。</p> <p>Macintoshで64kbps（同期）に接続する場合、モデムポート（またはプリンタポート）が115.2kbpsが出ない機種である</p> <p>57.6kbpsにも対応しています。添付CD-ROMに入っているCCLファイルと入れ替えてください。</p>	P.69

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
インターネットがうまくいかないとき	<p>2 . PHS やリモートステーションを通して、インターネットなどへ接続しようとしたときすぐに「データセッタン」と表示される</p>	<p>PHS やリモートステーションが登録されている無線ポートの「データ発信モード」が「プロトコル変換モード（同期64k）」に設定されている</p> <p>Aterm のデータポートまたは、他のPHS やリモートステーションがすでに「プロトコル変換モード」を使用中の場合は接続できません。他のデータ通信が終るのを待ってから再度接続してください。</p> <p>他のPHS やリモートステーションが使用中である</p> <p>Aterm のPHS ランプで無線ポートの使用状況が確認できます。</p> <p>緑の点滅では、無線ポートの1つが使用中です。リモートステーションからのデュアルリンクワイヤレス通信はできません。</p> <p>赤の点滅では、無線ポートが2つとも使用中です。PHS および、リモートステーションのすべての無線通信が使用できません。他の無線ポートの使用が終わるのをお待ちください。</p>	
	<p>3 . PHS からインターネットにアクセスしたとき、「ユーザー名とパスワードを確認中」のあとにエラーになる</p>	<p>アクセスポイントのプロトコルとAterm の無線ポートの「データ発信モード」が合っていない</p> <p>PIAFS のアクセスポイントに接続する場合は、無線ポートの「データ発信モード」を「PIAFS スルーモード」に設定してください。同期のアクセスポイントに接続する場合は、無線ポートの「データ発信モード」を「プロトコル変換モード（同期64k）」に設定してください。</p> <p>PHS 通信事業者が提供しているPHS 専用アクセスポイント（「PIAFS ネット」、 「PTE アクセスポイント」など）に接続している</p> <p>PHS 通信事業者が提供しているPHS 専用アクセスポイントにはINS ネット64 経由からのアクセスはできません。これは利用料をPHS 契約者へ請求するためPHS 加入者かどうかをチェックしているためです。</p> <p>一般のプロバイダのアクセスポイントを利用するか、直接PHS 公衆網からアクセスしてください。</p>	P.136
	<p>4 . リモートステーションからインターネットにアクセスできない</p>	<p>リモートステーションを接続したパソコンの「使用するモデム」の設定が合っていない</p> <p>添付CD-ROM からリモートステーション用のモデム情報をインストールしてください。</p>	

こんなとき	症状	原因と対策	参照ページ
インターネットがうまくいかないとき	5. PPPモジュールに入力する初期化コマンドがわからない	<p>PPPモジュールによっては、初期化コマンドをキーボードで入力する必要があります。アクセスポイントごとの初期化コマンドを示します</p> <p>アクセスポイントによって次の初期化コマンドを指定してください。</p> <p>非同期アクセスポイントに接続する場合 (Windows)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・atq0v1x3\$N1=0¥q3 <p>非同期アクセスポイントに接続する場合 (Macintosh)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・atq0v1x3\$N1=0¥q3&d1 <p>64k同期アクセスポイントに接続する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・atq0v1x3\$N1=1 <p>128k同期アクセスポイントに接続する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・atq0v1x3\$N11=1 	P.70
接続はするが通信がおかしいとき	速度が遅く感じられる	<p>接続先やインターネットのルートが混んでいると通信速度が遅くなることがあります</p> <p>時間帯を変えてもう一度接続してみてください。</p> <p>パソコンの設定速度が遅い</p> <p>Windowsパソコンでは、通信形態によってパソコンの設定速度を変更しないと、期待した通信速度ができません。次のように設定してください。一般的には、高速シリアルボードを購入して通信速度を出せるようにします。</p> <p>非同期/同期PPP変換 (同期64k通信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・115.2kbps以上 <p>非同期通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・基本的に通信速度と同じにする 	P.251
通話・通信を終了したとき	液晶ディスプレイのB1またはB2の表示が消えない	<p>液晶ディスプレイに ➡ B1B2のいずれかが表示されたままのときは、AtermとINSネット64を接続しているケーブルを抜いて、表示が消えることを確認してから再び差してください。これで通信が切断されます。</p>	
電源を切ったとき	液晶ディスプレイのRDY表示が消えない	<p>一部のパソコンでは、パソコンの電源を切ってもER信号をOFFにしない機種があります。このままでは、通信が切断されない場合があります。RDYは、パソコンの電源コンセントを抜けば消えますが、通信は切断されない場合があります。</p> <p>液晶ディスプレイの ➡ B1B2のいずれかが表示されたままのときは、AtermとINSネット64を接続しているケーブルを抜いて、表示が消えることを確認してから再び差してください。これで通信が切断されます。</p>	

W=Windows98/Windows95/WindowsNT4.0 M=Macintosh T=電話機

こんなとき	症状	原因と対策	参照 ページ
停電時に動作しないとき	1. POWERランプが点滅しない	<p>Atermの電源スイッチが「 」(OFF)になっている</p> <p>電源スイッチが入った状態でないと停電モードが使えません。「-」(ON)にしてください。</p> <p>単3アルカリ乾電池がセットされていない、または+・-を間違えてセットしている</p> <p>市販の単3アルカリ乾電池を正しくセットしてください。</p> <p>単3アルカリ乾電池の容量がなくなっている</p> <p>電池を交換してください。</p>	<p>P.42</p> <p>P.36</p> <p>P.37</p>
	2. 電話がかげられない	<p>アナログBポートに電話機を接続している</p> <p>停電時に使用できるアナログポートはアナログAポートだけです。電話機をアナログAポートに接続してください。</p>	P.38
	3. 電池の使用時間が短い	<p>アナログBポートの電話機の受話器を上げている</p> <p>受話器を置いてください。</p> <p>オプションのS点ユニットにも給電されるので、S点ユニットに他のISDN通信機器を接続していると使用時間が短くなります。</p>	P.37
累積料金と実際の料金が異なるとき	-	<p>タイムプラス、テレホーダイなどのサービスに加入していたり、PHS公衆網など他事業者経由で通信をおこなったなどの場合は、累積料金と実際の請求額が異なります。Atermでは切断時に網から通知された金額をそのまま表示し、累積料金として計算しています。</p> <p>また、PHS公衆網やNCC網などの他事業者と通信をしたときで、料金情報がネットワークから送出されない場合にも累積料金と実際の請求額が異なることがあります。</p> <p>Atermの電源を切ったり初期化した</p> <p>累積料金は、Atermの電源を切ったり初期化したりすると、0円または前回保存した値にもどります。ユーティリティまたは電話から操作して累積料金を表示したあとに、設定値の保存をおこなうと、そのときに表示された累積料金の値が保存されます。</p>	
添付CD-ROMのメニュー画面をもう一度出したいとき (Windows98/ Windows95)	-	<p>「エクスプローラ」を起動し「CD-ROMドライブ」をダブルクリック 「menu.exe」ファイルをダブルクリックします。</p>	

ハイパーターミナルで接続を確認する(Windows 98/Windows 95)

パソコンとAtermが正しく接続されているか「ハイパーターミナル」で確認できます。

「ハイパーターミナル」はWindows 98/Windows 95に添付されている通信ソフトです。Windows 98/Windows 95のインストール方法によっては、ハイパーターミナルがインストールされていないことがありますので、その場合はWindows 98/Windows 95の取扱説明書を参照し、インストールしてください。

画面はWindows 98の例で、お使いのパソコン環境によっては画面表示が異なる場合があります。

- 1 [スタート] [プログラム] [アクセサリ] [通信] [ハイパーターミナル]を選択します。

Windows 95では、[スタート] [プログラム] [アクセサリ] [ハイパーターミナル]となります。

[Hyper Terminal]画面が表示されます。

- 2 「Hypertrm」アイコンをダブルクリックします。

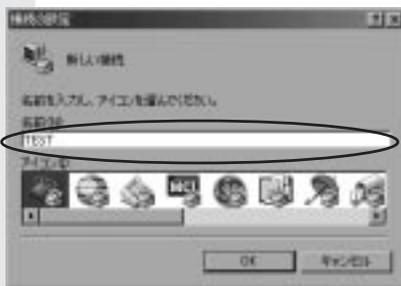


エクスプローラの設定によっては、「Hypertrm.exe」と表示されることがあります。またHypertrm以外のアイコンが表示されることがあります。

[接続の設定]画面が表示されます。

- 3 「名前」にアイコンの名称を任意に入力します。

例 TEST



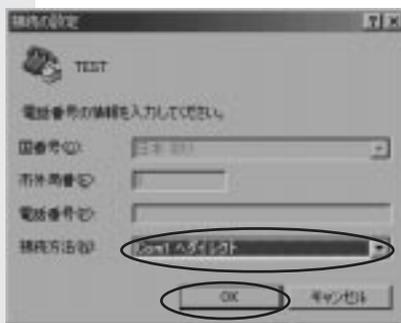
- 4 お好きなアイコンの絵をクリックして選択します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

[電話番号]画面が表示されます。

- 6 「接続方法」の中からAtermを接続しているCOMポートを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

例 Com1ヘダイレクト



どのCOMポートに接続されているかわからない場合、この設定を変えてみることでよりAtermが接続されているCOMポートを調べることができます。

[COM1のプロパティ]画面が表示されます。

7 次のように設定を変更します。

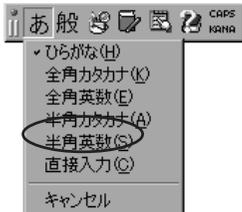


ビット / 秒 9600
データビット 8
パリティ なし
ストップビット ... 1
フロー制御 ハードウェア

8 OK ボタンをクリックします。

[新しい接続－ハイパーターミナル] 画面が表示されます。

以降の手順で文字を入力するには、半角大文字が半角小文字のどちらかに統一して入力します。大文字・小文字を組み合わせで用いることはできません。M S - I M E 95 などのツールバーの入力モードボタンをクリックし、「半角英数」入力になっていることを確認してから入力をしてください。



9 半角で at 〔〕 と入力します。

「OK」と表示されることを確認してください。

「OK」が表示されないときは、Atermが応答しない設定になっている場合があります。

atq0v1e1\$s 〔〕 (「0」は数字) と入力して「OK」が表示されることを確認してください。

それでも「OK」と表示されないときは、ケーブルで接続したパソコンのCOMポート番号が 6 の「接続方法」で選択したポートではない可能性があります。Atermとパソコンが接続されているCOMポートを選択しなおしてください。

10 ati4 〔〕 と入力します。

「AtermIW NEC Corporation」と表示されることを確認してください。表示されれば、Atermとパソコンが正しく接続されています。



別の表示が出たら、他のターミナルアダプタやモデムが応答しています。この場合はCOMポート番号の指定が違っていますので、3 の「接続方法」でAtermが接続されているパソコンのポートを選択しなおしてください。

画面左下の接続時間は、パソコンがAtermの接続されているCOMポートを開いてからの接続時間を表しています。通信回線の接続時間とは異なります。

Aterm を使えない時

Aterm を活用しよう
機能編

Aterm を活用しよう
設定編

困ったときは

付録

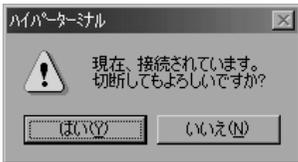
索引

11

[ファイル] [ハイパーターミナルの終了] を選択します。



切断の確認画面が表示されます。



12

セッションを保存する場合は **はい**、保存しない場合は **いいえ** ボタンをクリックします。

セッションを保存しておく、次の接続確認時に同じコマンドが利用できます。

2 . お問い合わせ・アフターサービスについて

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



Windows®98 は Microsoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95 は Microsoft® Windows®95 operating system の略です。

WindowsNT®4.0 は Microsoft® WindowsNT® operating system Version 4.0 の略です。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス (PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

3 . AtermIW50/Dに接続したパソコンでインターネットの接続がうまくいかなかったとき

3-1 . Windows®98/Windows®95 で接続する

『IW50らくらくウィザード』での接続がうまくできなかったときは、手動で設定をします。インターネットに接続するにはTCP/IPとネットワークの設定が必要です。TCP/IPとネットワークがパソコンにインストールされていない場合は、あらかじめインストールしておいてください。(プリインストールモデルの場合は、標準で装備されています。)

モデム情報をインストールする

Aterm をインターネット接続の際に使用するモデムとして設定します。

- 1 パソコンを起動します。
- 2 添付のCD-ROM『AtermIW50シリーズユーティリティ集』をCD-ROMドライブにセットします。
このときCD-ROMをセットしてからアクセスしている間、キーボードの **[SHIFT]** キーを押したままにしてください。
ユーティリティ集のメニューは表示されません。
ユーティリティ集のメニューが表示された場合は、メニューの中の **[終了]** ボタンをクリックしてください。
- 3 **[スタート]** **[設定]** **[コントロールパネル]** を選択します。
- 4 「モデム」アイコンをダブルクリックします。



- 5 [モデムのプロパティ] 画面の **[追加]** ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール] 画面が表示されます。

- 6 「インストールするモデムの種類」の「その他」を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。



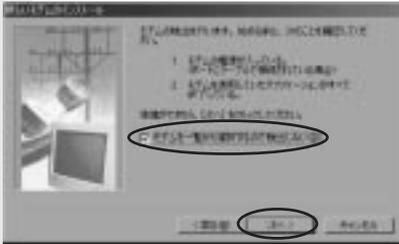
Windows®98 は Microsoft® Windows®98 operating system の略です。
Windows®95 は Microsoft® Windows®95 operating system の略です。
WindowsNT®4.0 は Microsoft® WindowsNT® operating system Version 4.0 の略です。

- 7 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にして「次へ」ボタンをクリックします。

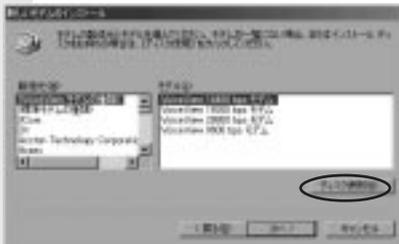


この画面が表示されない場合は、9に進みます。

- 8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にして「次へ」ボタンをクリックします。

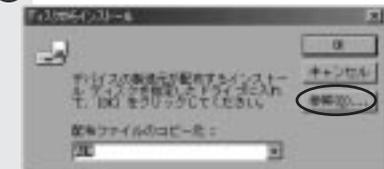


- 9 「ディスク使用」ボタンをクリックします。



「ディスクからインストール」画面が表示されます。

- 10 「参照」ボタンをクリックします。

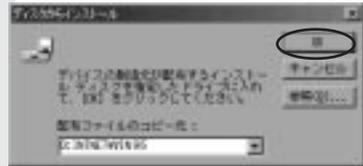


- 11 「ドライブ」の▼をクリックしてCD-ROMドライブ(C:)を選択し、「フォルダ」欄の「inetnet」をダブルクリックします。



- 12 「win95」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmniw.inf」をクリックして「OK」ボタンをクリックします。

「ディスクからインストール」画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。



- 13 「OK」ボタンをクリックします。

「新しいモデムのインストール」画面が表示されます。



- 14 使用するモデムを選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線 64 kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128 kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS 32k	AtermIW PIAFS32 (Direct)
	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS 64 k	AtermIW PIAFS64

PIAFS32kまたはPIAFS64kを選択した場合は、第4編「3-1. Windows98/Windows95で接続する」の「ダイヤルアップアイコンの設定をする」(P.256)の⑦~③の設定をしてください。

モデムはプロバイダのアクセスポイントにより異なります。通常は64kbps(同期)が多いようですが、不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

15 次へ ボタンをクリックします。

16 Aterm が接続されているポートを選択し、次へ ボタンをクリックします。



17 完了 ボタンをクリックします。
モデムのインストールが完了します。

18 ⑬で選択したモデムが反転表示されていることを確認し、プロパティ ボタンをクリックします。



モデムが反転表示されていないときは、モデム名をクリックして反転させます。

すでに設定してあるモデムの情報と同じものを再度設定すると [情報] タブ内に「AtermIW SYNC115 #2」という#2が付いたモデム情報が表示されます。

モデム情報を削除するときは、不要なモデム名をクリックしてから削除 ボタンをクリックします。

[検出結果] タブでポートを選択して「詳細情報」をクリックすると、一部「ERROR」と表示される項目がありますが、異常ではありません。

19 「最高速度」の▼をクリックし、表示された中から最高速度を選択してOK ボタンをクリックします。



[モデムのプロパティ]画面にもどります。最高速度とはパソコンとAterm間の通信の最高速度のことをさします。インターネットの通信速度のことではありません。通常はインターネットの速度より高く設定します。

モデム情報	最高速度
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW MP128	230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600
AtermIW PIAFS32 (Compress)	115200
AtermIW PIAFS64	115200

Aterm を使えない

Aterm を活用しよう
機能編

Aterm を活用しよう
設定編

困ったときは

付録

索引

20

ダイヤルのプロパティ ボタンをクリックします。



21

所在地情報を設定します。



登録名：特に入力する必要はありません。
 国名 / 地域：「日本」を選択します。
 市外局番：先頭の「0」をのぞいて入力
 します。
 所在地との通話：初期値のままにします。

22

OK ボタンをクリックします。

[モデムのプロパティ]画面にもどります。

23

閉じる ボタンをクリックして [モデムのプロパティ] を終了します。

ダイヤルアップを設定する

インターネットにダイヤルアップ接続するための設定をします。

設定の前に、次の手順でダイヤルアップネットワークが組み込まれているか確認してください。

1

デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

2

「ダイヤルアップネットワーク」アイコンがあるか確認してください。

「ダイヤルアップネットワーク」アイコンがすでにある場合は、「ネットワークプロトコルの設定」(P.258)に進みます。

「ダイヤルアップネットワーク」アイコンがない場合は、次の手順で組み込んでください。

ダイヤルアップネットワークを組み込む

ダイヤルアップネットワークをパソコンに組み込みます。

以下の画面は Windows98 の例です。パソコンの種類によっては画面が多少異なる場合があります。

1

Windows98 に添付の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。

Windows98 がプリインストールされているパソコンの多くは、ハードディスクに CD-ROM の内容がコピーされています。この場合は、CD-ROM は必要ありません。

2

デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンの中の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックします。

3

[コントロールパネル]画面の「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

ネットワークプロトコルを設定する

ネットワークプロトコルを選択します。

① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



③ [ネットワークの設定] タブをクリックします。



[ネットワークの設定] 画面が表示されます。

④ 「現在のネットワークコンポーネント」にプロバイダへの接続に必要な次の3つがあるか確認します。

Microsoft ネットワーククライアント
ダイヤルアップアダプタ
TCP/IP

これ以外のもは不要ですので、選択し **削除** ボタンをクリックして削除します。

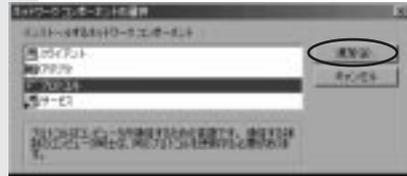
不足しているものがあれば **追加** ボタンをクリックします。

[ネットワーク構成ファイル追加] 画面が表示されます。

不足しているものによってそれぞれ次の設定をします。

Microsoft ネットワーククライアントを追加する場合：クライアントダイヤルアップアダプタを追加する場合：アダプタ
TCP/IPを追加する場合：プロトコル例 TCP/IP のとき（以降TCP/IPを例に説明します）

⑤ 「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択] 画面が表示されます。

⑥ 「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の「TCP/IP」を選択します。



⑦ **OK** ボタンをクリックします。

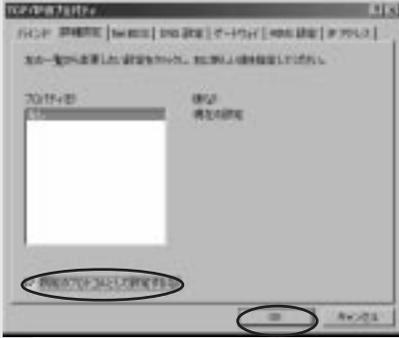
④ の [ネットワークの設定] 画面にもどります。

⑧ 「TCP/IP」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

[TCP/IPのプロパティ] 画面が表示されます。

⑨ [詳細設定] タブをクリックします。

- 10 「既定のプロトコルとして設定する」がグレー表示、またははっきりと表示されているときは になっていることを確認します。



- 11 **OK** ボタンをクリックします。
[ネットワークの設定]画面にもどります。
- 12 **OK** ボタンをクリックします。
「再起動しますか」と表示されます。
- 13 **はい** ボタンをクリックします。
パソコンが再起動し、設定したTCP/IPが有効になります。

プロバイダを設定する

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。
ここでは、NECの運営するプロバイダ『BIGLOBE』を例に説明します。

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」の中の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

ダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときは、「ダイヤルアップネットワークによる」の画面が表示されます。この場合は、**次へ** ボタンをクリックします。次回以降の起動時には表示されません。

[ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。

- 2 「新しい接続」アイコンをダブルクリックします。



「BIGLOBE」アイコンがある場合は、「プロバイダとの接続を確認する」(P.258)に進みます。

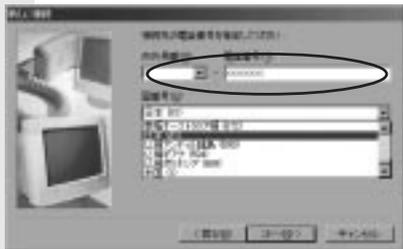
- 3 「接続名」に接続するプロバイダの名前を入力します。この名前が接続用アイコンの名前になります。



- ④ 「モデムの選択」に「モデム情報をインストールする」の③で設定したモデム名が表示されていることを確認し、**次へ** ボタンをクリックします。

設定したモデム名が表示されていない場合は、**▼**をクリックし、その中から選択します。

- ⑤ 接続するアクセスポイントの電話番号を入力します。
市外局番の先頭の「0」は除いて入力します。



- ⑥ 「国番号」の中から「日本(81)」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

- ⑦ **完了** ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどり、「接続名」の付いたアイコンが追加されます。

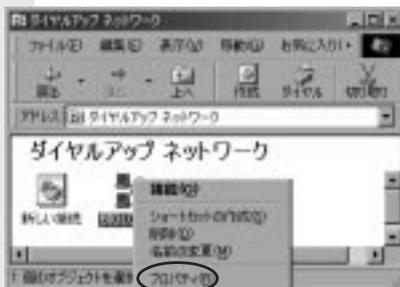
続けて「ダイヤルアップネットワークアイコンの設定をする」へ進みます。

ダイヤルアップネットワークアイコンの設定をする

- ① [ダイヤルアップネットワーク]画面で接続名が付いた接続用アイコン(例:BIGLOBE64)にマウスポインタを合わせ、右クリックします。

ショートカットメニューが表示されます。

- ② メニューから[プロパティ]を選択します。



接続先の情報画面が表示されます。

- ③ **設定** ボタンをクリックします。



PIAFS32k/PIAFS64kアクセスポイントにアクセスするには、アクセスポイントに合ったモデムを選択するか、または次のようになります。

- ① モデムは「AtermIW SYNC115」を選択する

- ② 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を にする



- ③ 電話番号の末尾に以下の文字を入力する

PIAFS32k アクセスポイントの場合：

末尾に「PF」を入力

PIAFS64k アクセスポイントの場合：

末尾に「PD」を入力

[AtermIW SYNC115のプロパティ]

画面が表示されます。

- ④ 「最高速度」がアクセスポイントの条件に応じた通信速度であることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



最高速度は、モデム情報に合わせて選択してください。

モデム情報	最高速度
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW MP 128	230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600
AtermIW PIAFS32 (Compress)	115200
AtermIW PIAFS64	115200

- ⑤ [サーバーの種類]タブをクリックします。

- ⑥ サーバーの種類を下図のように設定します。



- ⑦ **TCP/IP設定** ボタンをクリックします。
[TCP/IP 設定] 画面が表示されます。

Aterm を使えない
Telephone

Aterm を活用しよう
機能編

Aterm を活用しよう
設定編

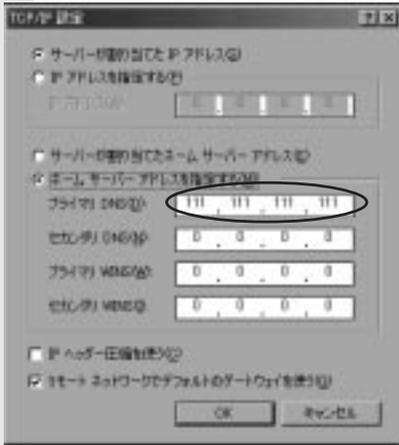
困ったときは

付録

索引

8

「ネームサーバーアドレスを指定する」を にし、プロバイダより指定されたネームサーバーのIPアドレスを入力します。(プライマリDNSのみの設定でもかまいません。)



設定内容はプロバイダにより異なるので、プロバイダのユーザ情報資料などに従って指定してください。

9

「IPヘッダー圧縮を使う」を にします。

10

ボタンをクリックします。

11

クローズボックスをクリックし、ダイヤルアップネットワークの設定を終了します。

プロバイダとの接続を確認する

データポートに接続したパソコンからプロバイダのアクセスポイントに電話をかけ、インターネットに接続できるか確認します。

1

「マイコンピュータ」の中の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックし、接続用アイコン(例: BIGLOBE64)をダブルクリックします。

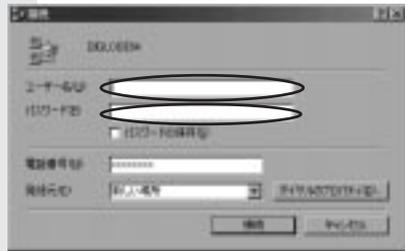


BIGLOBE64

[接続] 画面が表示されます。

2

ダイヤルアップ接続用の「ユーザー名」(ユーザーID)と「パスワード」を入力します。



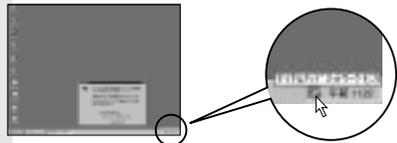
契約しているプロバイダのユーザ情報資料などに従って入力してください。

「パスワードを保存する」を にすると入力したパスワードが保存され、次回から入力する必要がなくなります。

3

ボタンをクリックします。

パソコンからプロバイダに電話をかけてつなぐと、ユーザー名とパスワードの確認がおこなわれます。確認されるとプロバイダのホストコンピュータに接続され、パソコンのタスクトレイに[ダイヤルアップネットワークモニター]のアイコンが表示されます。



4 接続できたことが確認できたら、タスクトレイの「ダイヤルアップネットワークモニター」のアイコンをダブルクリックし、「切断」ボタンをクリックします。

5 切断の確認画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

インターネットの接続が切断されます。

通信回線が正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」と約20秒間表示されます。



切断操作をしても Aterm の液晶ディスプレイにデータ通信中のピクトグラム(➡ B1B2)のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときは Aterm と INS ネット 64 を接続している INS 回線ケーブルを一度抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS 回線ケーブルを抜くと Aterm のすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中でないことを確認してから INS 回線ケーブルを抜いてください。アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などで接続できないことがあります、そのときも通信料金はかかります。



PHS + PIAFS データカードやリモートステーション (Aterm RS20 など) を使用してインターネットに接続しているときは、Aterm の液晶ディスプレイには「B1B2」の状態しか表示されません。「B1B2」の表示が消えていることを確認してから切断してください。

通信先が話中のときに Aterm のデータポートがおこなう自動発信は、最初の発信から3分間で2回以内に制限されています。この制限を超える再発信は受け付けません。

ホームページを見る

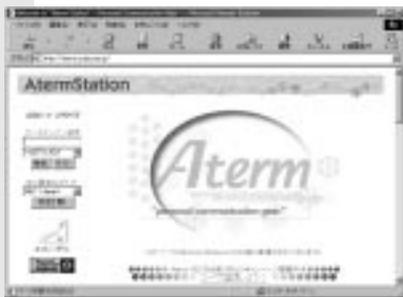
プロバイダと接続ができればブラウザソフトを使ってホームページを見ます。ホームページにアクセスするにはブラウザソフトの設定が必要です。詳細はブラウザソフトの「ヘルプ」などを参照してください。

1 Internet Explorer や Netscape Navigator などのブラウザソフトを起動します。

2 見たいホームページのアドレス (URL) を入力してリターンキーを押します。

例 Aterm のホームページ =

<http://aterm.cplaza.ne.jp>



AtermStationのアドレスおよび画面は平成12年1月現在のものです。

3 見終わったら「ファイル」「終了」を選択し、ブラウザソフトを終了します。

4 タスクトレイの「ダイヤルアップネットワークモニター」アイコンをダブルクリックし、「切断」ボタンをクリックします。

5 切断の確認画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

ブラウザソフトを終了しても電話はつながったままになっています。インターネットの接続を終了するときは、必ず「ダイヤルアップネットワークモニター」の切断操作をしてください。

Windows98を使っていてブラウザソフトのアイコンがないとき

Windows98をお使いの場合で、デスクトップにブラウザソフトのアイコンがないときは、「Internet Explorer」アイコンを作成しておきます。

- 1 デスクトップの「インターネットに接続」アイコンをダブルクリックします。



「インターネット接続ウィザード」が起動します。

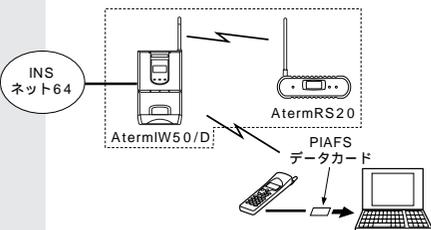
- 2 表示された選択肢の中の「既にインターネット接続の設定が・・・表示しない」を にします。

- 3 **次へ** ボタンをクリックし、終了します。

デスクトップの「インターネットに接続」アイコンがなくなり、「Internet Explorer」と「Outlook Express」のアイコンが作成されます。

PHSでインターネットに接続する

ノートパソコンなどにPIAFSデータカードとPHSを接続し、ワイヤレスでAtermからインターネットに接続することができます。Atermとノートパソコンそれぞれに設定が必要です。



Aterm を設定する

『IW50らくらくユーティリティ』を使用して設定します。

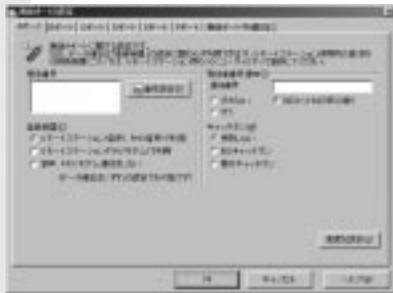
- 1 Aterm に接続したパソコンの電源を入れます。

- 2 **スタート** [プログラム] [Aterm IW50 ユーティリティ] [IW50らくらくユーティリティ] を選択します。

[IW50らくらくユーティリティ] 画面が表示されます。

- 3 **無線ポート** ボタンをクリックします。

[無線ポートの設定]画面が表示されます。



- 4 PHSが登録されているポート名(無線A～Fポート)のタブをクリックし、**高度な設定** ボタンをクリックします。

[無線ポート - 高度な設定]画面が表示されます。



内線番号「91」のPHSは、無線Aポートに設定します。同様に内線番号「92」は無線Bポート、内線番号「96」は無線Fポートに設定します。

- 5 接続するアクセスポイントに合わせ「データ発信モード」を設定します。
PIAFS 対応アクセスポイント：
「PIAFS スルーモード」
同期アクセスポイント：
「プロトコル変換モード(同期64k)」
非同期アクセスポイント：
「デュアルリンクワイヤレス通信」

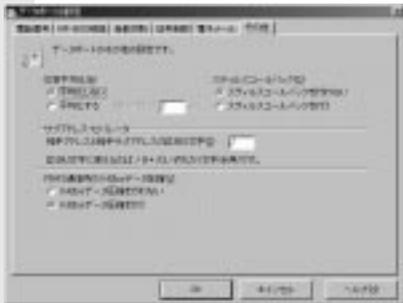
6 OK ボタンをクリックします。
[無線ポートの設定]画面にもどります。

7 OK ボタンをクリックします。
[IW50 らくらくユーティリティ]画面にもどります。

- 8 PIAFS通信でV.42bisデータ圧縮モードを使用する場合は、 データポート ボタンをクリックします。
V.42bisデータ圧縮モードを使用しない場合は ⑩ に進みます。
[データポート]画面が表示されます。



- 9 [その他]タブをクリックし、V.42bisデータ圧縮の有無を選択します。(初期値：圧縮を行う)



V.42bis データ圧縮する/しないの設定は、データポートとすべての無線ポートに共通して有効となります。ポートごとのする/しないの設定はできません。

V.42bis データ圧縮をするには、通信相手(プロトコル変換モードの場合は、無線ポートに接続されたPHS 端末)も「V.42bis データ圧縮をする」に設定します。PHSに接続するPIAFSカードの取扱説明書を参照の上、設定してください。

10 OK ボタンをクリックします。
「不揮発メモリに書き込みました」と表示されます。

11 OK ボタンをクリックします。

ノートパソコンを設定する

PHS に接続するノートパソコンで、PIAFS データカードのモデム情報とダイヤルアップの設定、プロバイダの設定をします。

- 1 使用するPIAFSデータカードのモデム情報をパソコンにインストールします。
インストール方法については、PIAFSデータカードの取扱説明書を参照してください。
- 2 ダイヤルアップの設定、プロバイダの設定をします。

設定方法は「ダイヤルアップを設定する」(P.256)、「プロバイダを設定する」(P.255)を参照してください。



PHSとAtermをワイヤレスで通信するには、増設登録(ID登録有料)が必要です。増設登録については、第1編「1-2.お使いになる前に」(P.24)を参照してください。

Aterm を使えるよ

Aterm を活用しよう
機能編

Aterm を活用しよう
設定編

困ったときは

付録

索引

3-2 . WindowsNT®4.0 で接続する

WindowsNT4.0 でインターネットに接続するには、TCP/IP とネットワークの設定が必要です。TCP/IP とネットワークがパソコンにインストールされていない場合は、あらかじめインストールしておいてください。

PHS を使用してインターネット接続する方法は「3-1 . Windows98/Windows95 で接続する」(P.260) を参照してください。

モデム情報をインストールする

Aterm をインターネット接続の際に使用するモデムとして設定します。

- 1 パソコンを起動します。
- 2 添付 CD-ROM 「AtermIW50 シリーズユーティリティ集」を CD-ROM ドライブにセットします。
このとき CD-ROM をセットしてからアクセスしている間、キーボードの **[SHIFT]** キーを押したままにしてください。
ユーティリティ集のメニューは表示されません。
ユーティリティ集のメニューが表示された場合は、メニューの中の **[終了]** ボタンをクリックしてください。
- 3 **[スタート]** **[設定]** **[コントロールパネル]** を選択します。
- 4 「モデム」アイコンをダブルクリックします。



- 5 [モデムのプロパティ] 画面の **[追加]** ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール] 画面が表示されます。

- 6 「インストールするモデムの種類」の「その他」を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。

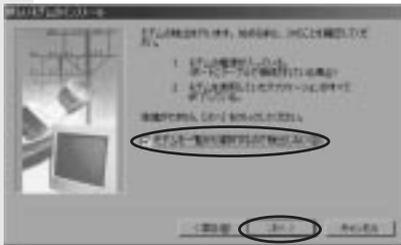


- 7 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にして **次へ** ボタンをクリックします。



この画面が表示されない場合は、⑨に進みます。

- 8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にして **次へ** ボタンをクリックします。



- 9 **ディスク使用** ボタンをクリックします。



【ディスクからインストール】画面が表示されます。

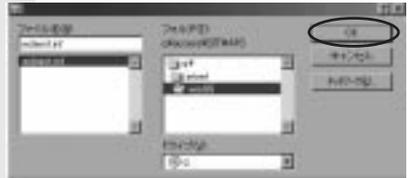


- 10 **参照** ボタンをクリックします。

- 11 「ドライブ」の をクリックして CD-ROM ドライブ () を選択し、「フォルダ」欄の「inetnet」をダブルクリックします。

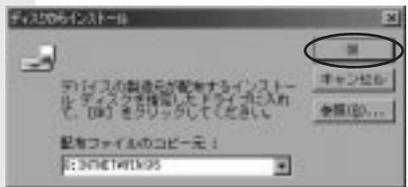


- 12 「win95」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnet.inf」をクリックして **OK** ボタンをクリックします。



【ディスクからインストール】画面にもどり、指定した CD-ROM ドライブとフォルダ名が表示されます。

- 13 **OK** ボタンをクリックします。



【新しいモデムのインストール】画面が表示されます。

14

使用するモデムを選択します。



モデムはプロバイダのアクセスポイントにより異なります。通常は64kbps（同期）ですが、不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

15

次へ ボタンをクリックします。

16

Aterm が接続されているポートを選択し、次へ ボタンをクリックします。



17

完了 ボタンをクリックします。

モデムのインストールが完了します。



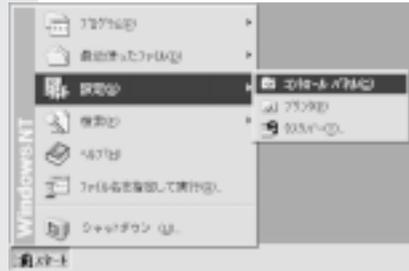
PIAFS32k/64kアクセスポイントにアクセスするモデムは表示されません。アクセスする場合はモデムを「AtermI/W ASYNC115」とし、モデムプロパティの追加設定でATコマンドを入力します。

アクセスポイント	ATコマンド
PIAFS32k (圧縮あり)	ATQ0V1X0%C0\$NP1=0
PIAFS32k (圧縮なし)	ATQ0V1X0%C1\$NP1=0
PIAFS64k	ATQ0V1X0%C0\$NP1=1

リモートアクセスサービスを設定する

1

スタート [設定] [コントロールパネル] を選択します。



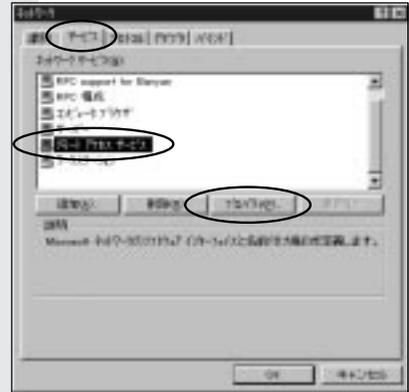
2

「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



3

[サービス] タブをクリックします。



4

「リモートアクセスサービス」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

「リモートアクセスサービス」が組み込まれていない場合は、「追加」ボタンをクリックして組み込んでください。

[リモートアクセスセットアップ]画面が表示されます。

- 5 [追加] ボタンをクリックします。



[RAS デバイスの追加] 画面が表示されます。

- 6 「RAS対応デバイス」からアクセスポイントに対応したAtermを選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ]画面にもどります。

- 8 [構成] ボタンをクリックします。



[ポート使用の構成]画面が表示されます。

- 9 「ポートの使い方」の「ダイヤルアウトのみ」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ]画面にもどります。

「ダイヤルアウトのみ」を選択すると発信専用になります。着信も受ける場合は「ダイヤルアウトと着信」を選択します。ただし「ダイヤルアウトと着信」を選択するとRAS着信待ちとなってCOMポートを占有するため、『IW50らくらくユーティリティ』が起動できなくなります。『IW50らくらくユーティリティ』を使用するときには、いったん「ダイヤルアウトのみ」に切り替え、設定終了後「ダイヤルアウトと着信」に戻してください。

- 10 [ネットワーク] ボタンをクリックします。



[ネットワークの構成]画面が表示されます。

- 11 「ダイヤルアウトプロトコル」の「TCP/IP」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



[リモートアクセスセットアップ]画面にもどります。

- 12 [続行] ボタンをクリックします。



[ネットワーク]画面にもどります。

- 13 [プロトコル] タブをクリックします。

- 14 「ネットワークプロトコル」の「TCP/IPプロトコル」が追加されていることを確認し、**閉じる** ボタンをクリックします。



[ネットワーク設定の変更]画面が表示されます。

- 15 **はい** ボタンをクリックします。
Windows NT 4.0 が再起動します。

プロバイダを設定する

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。

- 1 **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ダイヤルアップネットワーク] を選択します。

[ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。

- 2 **新規** ボタンをクリックします。

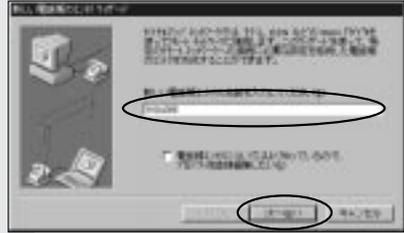


[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されます。

[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されないときは、7以降の操作を実行してください。

- 3 「新しい電話帳エントリの名前を入力してください」にプロバイダの名前を入力し、**OK** ボタンをクリックします。

名前は英数、カナ、漢字、半角などで任意に入力できます。入力した名前で接続用アイコンが作成されます。



- 4 「インターネットに接続する」を にし、**次へ** ボタンをクリックします。



[電話番号]画面が表示されます。

- 5 接続するプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



[新しい電話帳のエントリウィザード]画面にもどります。

- 6 [完了] ボタンをクリックします。



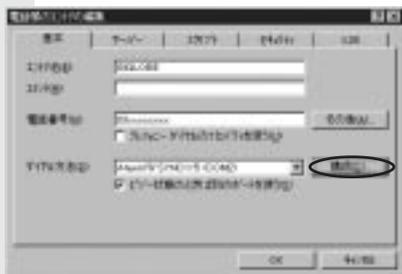
[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどります。

- 7 [その他] ボタンをクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]を選択します。



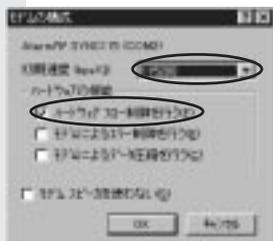
[電話帳のエントリの編集]画面が表示されます。

- 8 [基本] タブをクリックし、設定内容を確認して [構成] ボタンをクリックします。



[モデムの構成]画面が表示されます。

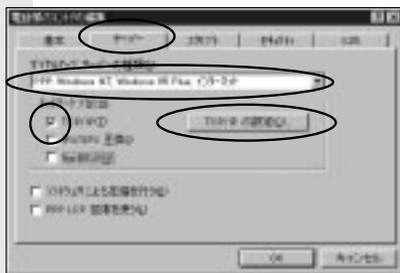
- 9 「初期速度」を「115200」に設定します。



- 10 「ハードウェアの機能」の「ハードウェアフロー制御を行う」を にします。他は にし、[OK] ボタンをクリックします。

[電話帳のエントリの編集]画面にもどります。

- 11 [サーバー] タブをクリックし、「ダイヤルアップサーバーの種類」を「PPP: Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」にします。

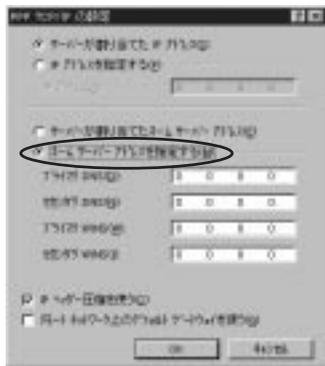


- 12 「ネットワークプロトコル」の「TCP/IP」を にします。

他は にし、[TCP/IPの設定] ボタンをクリックします。

[PPP TCP/IP の設定]画面が表示されます。

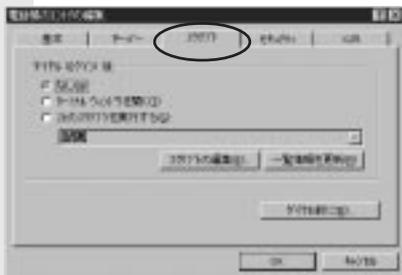
- 13 「サーバーが割り当てたIPアドレス」、「ネームサーバーアドレスを指定する」を選択します。



- 14 「プライマリDNS」と「セカンダリDNS」にDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力します。
契約しているプロバイダのユーザ情報資料などに従って入力してください。

- 15 「IPヘッダー圧縮を行う」を にし、**OK** ボタンをクリックします。
[電話帳のエントリの編集]画面にもどります。

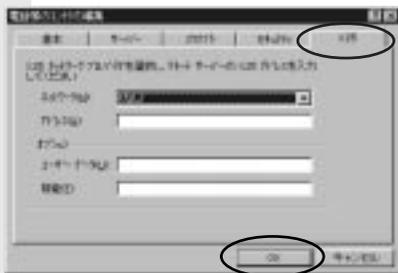
- 16 [スクリプト]タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認します。



- 17 [セキュリティ]タブをクリックし、「認証と暗号化の原則」の「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」または「暗号化された認証のみを受け付ける」を選択します。



- 18 [X25]タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認して **OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどります。

- 19 **閉じる** ボタンをクリックします。
プロバイダの設定が完了します。

プロバイダとの接続を確認する

データポートに接続したパソコンからプロバイダのアクセスポイントに電話をかけ、インターネットに接続できるか確認します。

- ① **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [ダイヤルアップネットワーク] を選択します。

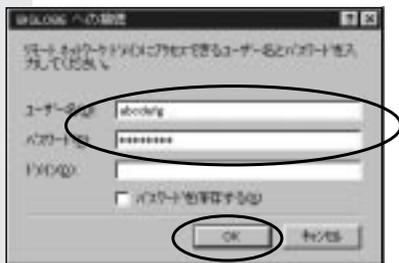
[ダイヤルアップネットワーク] 画面が表示されます。



- ② **ダイヤル** ボタンをクリックします。

電話帳に登録したプロバイダ名の接続画面が表示されます。

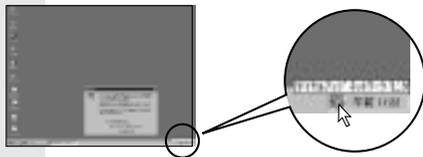
- ③ 「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



契約しているプロバイダのユーザ情報資料などに従って入力してください。「ドメイン」は空欄にしておきます。LANでご利用の場合は、自動的にドメイン名が入ります。「パスワードを保存する」を にすると入力したパスワードが保存され、次回から入力する必要がなくなります。

- ④ **OK** ボタンをクリックします。

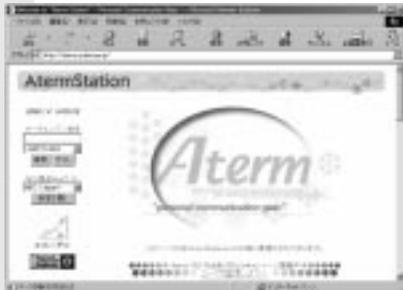
パソコンからプロバイダに電話をかけてつなげると、ユーザー名とパスワードの確認がおこなわれます。確認されるとプロバイダのホストコンピュータに接続され、パソコンのタスクトレイに [ダイヤルアップネットワークモニタ] のアイコンが表示されます。



- ⑤ Internet Explorer や Netscape Navigator などのブラウザソフトを起動します。

- ⑥ 見たいホームページのアドレス (URL) を入力してリターンキーを押します。

例 Aterm のホームページ =
<http://aterm.cplaza.ne.jp>



AtermStationのアドレスおよび画面は平成12年1月現在のものです。

- ⑦ 見終わったら [ファイル] [終了] を選択し、ブラウザソフトを終了します。

- ⑧ タスクトレイの「ダイヤルアップネットワークモニタ」のアイコンをダブルクリックします。

- ⑨ [ダイヤルアップネットワークモニタ] 画面の [状態] タブ内の **切断** ボタンをクリックします。

- ⑩ 切断の確認画面が表示されるので、**はい** ボタンをクリックします。

ブラウザソフトを終了しても電話はつながったままになっています。インターネットの接続を終了するときは、必ずこの画面の「切断」ボタンをクリックしてください。

インターネットの接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」と約20秒間表示されます。



切断操作をしてもAtermの液晶ディスプレイにデータ通信中のピクトグラム(☎ B1B2)のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときはAtermとINSネット64を接続しているINS回線ケーブルを一度抜いて、通信回線を強制的に切断してください。なお、INS回線ケーブルを抜くとAtermのすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中でないことを確認してからINS回線ケーブルを抜いてください。



インターネットに再度接続するときは、デスクトップの「マイコンピュータ」を開き、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックして[ダイヤルアップネットワーク]画面を開きます。PHS+PIAFSデータカードやリモートステーション(Aterm RS20など)を使用してインターネット接続しているときは、Atermの液晶ディスプレイには「B1B2」の状態しか表示されません。「B1B2」の表示が消えていることを確認してから切断してください。



通信先が話し中のときにAtermのデータポートがおこなう自動発信は、最初の発信から3分間で2回以内に制限されています。この制限を超える再発信は受け付けません。

Atermをお使いいただくお客様にユーザ登録をお願いしています。ご登録いただいたお客様には電子メールによる新製品情報やバージョンアップ情報、キャンペーン、イベントなどの特典・サービスをご提供しています。登録はAtermのホームページ「Aterm Station」で受け付けておりますので、ぜひご登録ください。

ご登録の際にご用意いただくもの
Aterm本体(機種名、製造番号)
電子メールアドレス
Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

第5編

付録

- 1 . ファンクションボタンでの操作…………… 272
- 2 . 自己診断…………… 279
- 3 . ATコマンド…………… 281
- 4 . 液晶ディスプレイの表示…………… 310
- 5 . 切断理由/診断情報/生成源表示一覧… 315
- 6 . Atermをバージョンアップする…………… 319
- 7 . AtermIW50/D製品仕様…………… 324
- 8 . ホームテレホン/ビジネスホンとの接続… 329
- 9 . 別売オプション…………… 330
- 10 . INSネット64のお申し込みについて… 331
- 11 . Aterm設定の控え…………… 334
- 12 . 用語集…………… 341

1. ファンクションボタンでの操作

AtermIW50/D 前面の (MENU)、(SELECT)、(ENTER) のファンクションボタンを使って次の設定ができます。Aterm の液晶ディスプレイを見ながら操作します。

- 着信履歴表示
- 着信履歴先発信
- 履歴先発信する電話機の指定
- 累積料金表示
- 累積料金の初期化
- 設定の初期化 (工場出荷時の設定にもどす)

着信履歴表示

アナログポートに着信した発信者番号、着信時間、応答の有無、応答したアナログポートの情報を Aterm の液晶ディスプレイに表示します。最大 50 件分の着信履歴が記憶でき、51 件以上になると古い履歴から削除されます。

使い方

- 1 (MENU) ボタンを押します。
- 2 (ENTER) ボタンを押します。
- 3 もう一度 (ENTER) ボタンを押します。
最新の着信履歴が表示されます。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

1 : チャクシンリレキ
ヒョウジ*

サイシンリレキヲ
ヒョウジ* シマス

↓ 5 秒後

3 0 日 2 3 : 0 5 A
0 3 x x x x x x x x /

(SELECT) ボタンを押すと、1 つ前の着信履歴が表示されます。

- 4 (MENU) ボタンを押します。
通常表示にもどります。
(MENU) ボタンを押さないと、20 秒後に自動的に通常表示にもどります。

着信履歴先発信

着信履歴に表示された電話番号に電話をかけます。

使い方

① **(MENU)** ボタンを押します。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

② **(ENTER)** ボタンを押します。

1 : チャクシンリレキ
ヒヨウジ

③ もう一度 **(ENTER)** ボタンを押します。
最新の着信履歴が表示されます。

サイシンリレキラ
ヒヨウジ シマス

↓ 5秒後

30日23:05 A
03xxxxxxx /

④ **(SELECT)** ボタンを押して、発信する電話番号を表示します。

⑤ **(ENTER)** ボタンを押します。

あらかじめ指定されている着信履歴先発信する電話機(P.274)の呼出音が鳴ります。

ハッシンチュウ

⑥ 呼出音の鳴っている電話機の手話器を上げると、着信履歴先の電話番号に発信します。

 アナログ A ハッシン
03xxxxxxx

例 アナログ A ポートからの発信時

履歴先発信する電話機の指定

着信履歴で発信する電話機を指定します。工場出荷時はアナログAポートに接続した電話機から発信するように指定してあります。

使い方

① (MENU) ボタンを押します。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

② (ENTER) ボタンを押します。

1 : チャクシンリレキ
ヒョウジ

③ (SELECT) ボタンを押します。

2 : ハッシンポ ート
センタク

④ (ENTER) ボタンを押します。

ハッシンポ ートヲ
センタクシマス

↓ 5秒後

ポ ートA

⑤ (SELECT) ボタンを押して履歴先発信する電話機が接続してあるアナログポートを選択します。

(SELECT) ボタンを押すたびに、ポートA、Bが切り替わります。

⑥ (ENTER) ボタンを押します。

ポ ートBヲ
センタクシマシタ

例 アナログBポートの電話機を選択した場合

↓ 5秒後

1 2 月 1 日 9 : 4 7

累積料金表示

各ポートの累積料金を表示します。

使い方

- 1 **MENU** ボタンを押します。
- 2 **SELECT** ボタンを押します。
- 3 **ENTER** ボタンを押します。
データポートの累積料金が表示されます。
- 4 **SELECT** ボタンを押して累積料金を表示するポートを選択します。
SELECT ボタンを押すたびに、アナログA アナログB 無線A 無線B ……
無線F データポートの順に累積料金が切り替わります。
- 5 **MENU** ボタンを押します。
通常の表示にもどります。
MENU ボタンを押さないと、20秒後に自動的に通常の表示にもどります。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

2 : リョウキン

ルイセキ データ
310円

ルイセキ アナログA
50円

累積料金の初期化

累積料金を 0 円にもどします。すべてのポートの累積料金が初期化されます。

使い方

- 1 (MENU) ボタンを押します。
- 2 (SELECT) ボタンを 3 回押します。
- 3 (ENTER) ボタンを押します。
- 4 (ENTER) ボタンを押します。
初期化しないときは、(MENU) ボタンを押すと通常表示にもどります。
- 5 もう一度 (ENTER) ボタンを押します。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

4 : ショキカ

ショキカメニューヲ
センタクシマス

↓ 5 秒後

1 : ルイセキカキンノ
ショキカ

ルイセキカキン
ショウキョシマスカ？

ショウキョシマシタ

↓ 5 秒後

1 2 月 1 日 9 : 4 7

設定の初期化

設定された内容をすべて消去し、工場出荷時の設定にもどします。

使い方

① (MENU) ボタンを押します。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

1 : チャクシンリレキ

② (SELECT) ボタンを 3 回押します。

4 : ショキカ

③ (ENTER) ボタンを押します。

ショキカメニュー
センタクシマス

④ (SELECT) ボタンを押します。

2 : コウジ ヨウシュッカ
シ ニショキカ

⑤ (ENTER) ボタンを押します。

初期化しないときは、(MENU) ボタンを
押すと通常表示にもどります。

コウジ ヨウシュッカシ
ニショキカシマスカ?

⑥ もう一度 (ENTER) ボタンを押します。

ショキカチュウ



初期化が終了し工場出荷時の設定にもどります。

1月 1日 10:00

通信速度の切り替え

128kbps マルチリンク PPP 通信中に通信速度を切り替えることができます。(「マニュアル BOD」といいます。)

マニュアル BOD を使用する場合は、あらかじめ「リソース BOD」を設定しておきます。(P.144)

設定

- 1 128kbps マルチリンク PPP 通信中に (ENTER) ボタンを押します。

128kbps マルチリンク PPP 以外のデータ通信中に (ENTER) ボタンを押すと、「ショウキョデキマセン」と5秒間表示されます。

通信速度を切り替えないときは、(MENU) ボタンを押すと通常表示にもどります。

- 2 (ENTER) ボタンを押します。

ディスプレイに表示されていた通信速度に切り替わり、ピクトグラムの表示が変わります。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

64 128 へ
ツイカスル?

通信速度 64kbps で通信しているとき

128 64 へ
サクシ ヨスル?

通信速度 128kbps で通信しているとき

ツイカシマス

通信速度を 64kbps から 128kbps にしたとき

サクシ ヨシマス

通信速度を 128kbps から 64kbps にしたとき



スループット BOD を設定している場合、データ量が少ないと (ENTER) ボタンを押しても 128kbps に切り替わりません。

2. 自己診断

自己診断機能を使ってAtermに異常がないか確認することができます。ハードウェアのブロックごとに試験します。

被試験ブロック名	試験内容	異常発見時ディスプレイ表示
FLASH	フラッシュメモリの読み込みが正常か確認します	Error FLASH
RAM	RAMの読み込み/書き込みが正常か確認します	Error RAM
INT	割込制御ユニットが正常か確認します	Error INT
LINE	ISDNインタフェースを制御するS点インタフェース制御部が正常か確認します	Error LINE
HDLC	通信送受信データの制御部が正常か確認します	Error HDLC
OPTION	Sユニット制御部が正常か確認します	Error OPTION
BBLSI	ベースバンドLSIが正常か確認します	Error BBLSI
ADPCM	ADPCM LSIが正常か確認します	Error ADPCM

試験のしかた

Aterm 前面のボタン操作で試験することができます

- ① **MENU** ボタンを押します。
- ② **SELECT** ボタンを 4 回押します。
- ③ **ENTER** ボタンを押します。
ブザーが「ビビビ…」と鳴ったあとにMSGランプが点滅します。

[Aterm 液晶ディスプレイ]

5 : シンダ ン

シンダ ン テストOK

異常があったとき

自己診断で異常が発見されると MSG ランプが赤色に点灯し、ブザーが鳴り続けます。ハードウェアのどのブロックに異常があったかを液晶ディスプレイで確認します。異常があった場合は第 4 編「2-3 . アフターサービスについて」(P.239) をご覧の上、最寄りの NEC サービスステーション、または保守契約されている場合は日本電気フィールドサービス株式会社に修理を依頼してください。

試験の終了方法

Aterm の電源をいったん切ってから、再度電源を入れてください。



自己診断をおこなっている最中は、途中で電源を切らないでください。電源を切ると Aterm でバックアップしている内容が正しく保持されないことがあります。

3 . AT コマンド

ATコマンドは米国Hayes社が自社用モデムのために開発、使用した非同期端末用自動発着信方式の通信ソフトウェアの一種で、コマンドのほとんどが「AT」で始まることからこう呼ばれています。AtermはATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。ATコマンドを使ってAtermを設定することができます。

AT コマンドの使い方

Windows 98 / Windows 95 の場合

Windows 98 / Windows 95 では標準で添付されている「ハイパーターミナル」を使用します。ハイパーターミナルについては、第 4 編「困ったときの Q&A」(P.236) を参照してください。



画面が表示されたら AT コマンドを入力して **[Enter]** キーを押すと AT コマンドが実行されます。

Macintosh の場合

Macintosh では AT コマンド用のアプリケーションが標準で添付されていません。AT コマンドが使える通信ソフトウェアを雑誌やホームページで入手するか、購入してください。



お知らせ

Aterm はパソコンの ER 信号 ON で通信可能になります。
ER 信号を ON できないパソコンの場合は、『IW50 らくらくユーティリティ』または「AT&D」コマンドで「ER 信号を常時 ON とみなす」に設定します。

AT コマンドの構成

AT コマンドは「コマンド」「S レジスタ」「リザルトコード」の3つから成り立っています。

コマンド

パソコンからターミナルアダプタに対して動作を指示するときに「コマンド」を使います。AT コマンドは次の形式で入力します。

AT	コマンド	CR	LF
----	------	----	----

コマンドは半角の英数字を入力します。

英字は大文字が小文字のどちらかに統一して入力します。大文字・小文字を組み合わせることはできません。

AT at x At aT

最大184字以内で複数のコマンドを連続して入力できます。184字を超えた場合はERRORをパソコンに返します。

コマンドによってはコマンドのうしろにパラメータが必要なものがあります。パラメータが省略されると値は「0」とみなされます。

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字で、省略できます。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードはASCIIを使用します。

AtermはATコマンドからパソコンのデータポート速度、データビット長、パリティを自動的に判別し、それに合わせます。

S レジスタ

コマンドを実行する際に参照するのが「S レジスタ」です。

S レジスタは、自動発着信の動作を規定する各種のパラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタで、S レジスタの内容を指定することによって、発着信動作を詳細に規定することができます。

S レジスタの内容は「ATSn」コマンドで変更できますが、通常は初期値のまま使います。

リザルトコード

ターミナルアダプタからパソコンに対して実行したコマンドの結果や着信の報告を「リザルトコード」といいます。

リザルトコードの形式はVコマンドで設定します。次の2種類があります。

英語表示のリザルトコード(初期値)

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

(英語)

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードはASCIIを使用します。

数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

リザルトコード	CR
---------	----

(数字)

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。

コードはASCIIを使用します。

AT コマンド一覧

AtermIW50/D が対応する AT コマンドの一覧です。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
N	回線速度の設定	0
O	コマンドモードからデータ通信モードへもどす	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示の設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータ初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
&C	CD信号制御設定	1
&D	ER信号制御設定	0
&H	短縮番号表示	-
&K	フロー制御方式設定	3
&S	DR信号制御設定	0

コマンド	機能概要	初期値
&Z	短縮番号登録	-
#C	データポートの通信料金・切断理由表示	-
#H	データポート用通知番号表示	-
#HA	アナログAポート用通知番号表示	-
#HB	アナログBポート用通知番号表示	-
#HPA ~HPF	無線A~Fポート用通知番号表示	-
#HSA ~#HSF	無線A~Fポート用ID登録状態表示	-
#M	PIAFSの設定と表示	1
#R	着信拒否	-
#Z	データポート用通知番号登録	-
#ZA	アナログAポート用通知番号登録	-
#ZB	アナログBポート用通知番号登録	-
#ZPA ~#ZPF	無線A~Fポート用通知番号登録	-
*H	着信番号・内線指定番号割当表示	-
*PC	発信i・ナンバー設定	-
*PN	i・ナンバー情報電話番号	-
*PR	着信i・ナンバー設定	-
*PX1	i・ナンバーの使用設定	-

コマンド	機能概要	初期値
*P?	i・ナンバー設定表示	-
*Z	着信番号・内線指定番号登録	-
*ZA	アナログAポート着信番号・内線指定番号割当	-
*ZB	アナログBポート着信番号・内線指定番号割当	-
*ZD	データポート着信番号・内線指定番号割当	-
*ZPA ~*ZPF	無線A~Fポート着信番号・内線指定番号割当	-
¥C	累積通話料金表示	-
¥CP	無線ポート累積通話料金表示	-
¥D	UIメール表示の設定と表示	注
¥L	発信情報表示	-
¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	各種設定表示	-
\$A	アナログAポートの設定と表示	注
\$B	アナログBポートの設定と表示	注
\$D	アナログポート共通設定と表示	注
\$H	着信転送用アドレス表示	-
\$L	LCDの設定と表示	注

コマンド	機能概要	初期値
\$M	128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注
\$N	データポートの設定と表示	注
\$NP	データポート/無線ポート優先着信ポート指定と表示	-
\$P	無線ポート共通設定と表示	-
\$PA ~\$PF	無線ポートの設定と表示	-
\$S	パラメータの保存	-
\$X	着信転送の設定	2, 0
\$Y	着信転送先アドレス登録	-
\$YM	遊遊メールの転送先メールアドレス登録	-
\$Z	着信転送元アドレス登録	-
%C	圧縮プロトコル指定	2
S	Sレジスタポイントの設定	0
?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-
!H	マイプライベート着信用アドレスの登録情報表示	-
!SH	疑似識別着信の登録情報表示	-
!SZ	疑似識別着信のアドレス登録	-

コマンド	機能概要	初期値
!UC	迷惑電話防止用アドレスの登録電話番号削除	-
!UH	迷惑電話防止用アドレスの情報表示	-
!US	迷惑電話防止用アドレスの登録	-
!VH	ボイスワープ設定電話番号の登録情報表示	-
!VZ	ボイスワープ設定電話番号登録	-
!WH	疑似識別リングング用アドレスの登録情報表示	-
!WZ	疑似識別リングング用アドレスの登録	-
!X	マイプライベート着信の設定	0
!Z	マイプライベート着信の相手番号と着信ポートの設定	-

: 電源を切ってもパラメータの内容が保持されます。

: セーブコマンド (AT\$S) を実行すると電源を切っても保持されます。

注: 初期値は各コマンドの説明を参照してください。

各コマンドの詳細

A

機能： 「RING」が表示されているとき相手と通信中にします。
書式： ATA
パラメータ： なし
入力例： ATA

D

機能： 発信して相手を呼び出します。
書式： ATD<パラメータ 1></パラメータ 2><パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 相手アドレス（相手電話番号）
S=0～9： 短縮・識別番号へ発信します。
¥：再発信します。
<パラメータ 2> 相手サブアドレス
<パラメータ 3> [ユーザ・ユーザデータ
; : コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力します。
CB： スティルスコールバックの発信をします。
PF： PIAFS32k設定されていない場合にPIAFS32k発信します。通信終了後は元の設定に戻ります。
PD： PIAFS64k設定されていない場合にPIAFS64k発信します。通信終了後は元の設定に戻ります。
PP： PIAFS2.1で発信します。
DL： デュアルリンクワイヤレスモードで発信します。

入力例： ATD0123-45-6789 [ABCD

ATDS=0

ATD0123-45-6789CB

補足： 相手電話番号は数字で最大32桁使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。

相手サブアドレスは数字で最大19桁使用できます。また、「/」以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。「/」は「/S」コマンドで変更できます。

「ユーザ・ユーザデータ」は最大128桁で、0～9、*、#、英字が使用できます。ユーザ・ユーザデータのの前には[を入れてください。

「;」はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。

「CB」指定時は合わせてスティルスコールバック着信許可（\$N10=1）にしてください。また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。

「CB」指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。

PIAFS32k、PIAFS64k通信時は「CB」は使用できません。

「CB」「PF」「PD」「DL」「PP」指定発信のリダイヤルはできません。

「CB」「PF」「PD」「DL」「PP」を必ず最後につけてください。

E

機能： エコーバックするかどうか指定します。
書式： ATE<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : エコーバックしません。
1 : エコーバックします。（初期値）

入力例： ATE0

H

機能： 通信を切断します。
書式： ATH
パラメータ： なし
入力例： ATH
補足： 最初にエスケープコマンド「+++」を入力し、コマンドモードにしてから「H」コマンドを入力します。

I

機能：	装置コード、装置メーカーを表示します。	
書式：	ATl<パラメータ 1>	
パラメータ：	<パラメータ 1>	0 : 装置コード(ATコマンドのバージョン:960)を表示します。
		4 : 装置メーカー(AtermIW NEC Corporation)を表示します。
入力例：	ATI4	

N

機能：	回線速度を指定します。	
書式：	ATN<パラメータ 1>	
パラメータ：	<パラメータ 1>	0 : パソコン側通信ポートの速度と同じ(初期値)
		1 : 1200bps
		2 : 2400bps
		3 : 4800bps
		4 : 9600bps
		5 : 14400bps
		6 : 19200bps
		7 : 28800bps
		8 : 38400bps
		9 : 57600bps
入力例：	ATN4	
補足：	フロー制御方式も合わせて設定してください。通常RS-CSフロー制御を選択します。 「D」コマンドの前に入力してください。 通信相手が異速度通信できないターミナルアダプタのときに相手のデータポート速度を指定します。 非同期通信時に使用できます。 <パラメータ 1>を0としてパソコン側通信ポートの速度を115200bpsや230400bpsとしたときは、回線速度は57600bpsとなります。	

O

機能：	エスケープコマンド「+++」を入力した後のオンラインコマンドモードから通信状態に戻します。	
書式：	ATO	
パラメータ：	なし	
入力例	ATO	

Q

機能：	リザルトコードを返すか返さないかを指定します。	
書式：	ATQ<パラメータ 1>	
パラメータ：	<パラメータ 1>	0 : リザルトコードを返します。(初期値)
		1 : リザルトコードを返しません。
入力例：	ATQ0	

V

機能：	リザルトコードを数値で返すか、英数文字で返すかを指定します。	
書式：	ATV<パラメータ 1>	
パラメータ：	<パラメータ 1>	0 : リザルトコードを数値で返します。
		1 : リザルトコードを英数文字で返します。(初期値)
入力例：	ATV0	

& K

機能:	フロー制御方式を設定します。		
書式:	AT&K<パラメータ 1>		
パラメータ:	<パラメータ 1>	0 または 5	: フロー制御しない。
		3 または 6	: RS-CSフロー制御
		4	: XON/XOFFフロー制御
入力例:	AT&K4		
補足:	初期値は「3」です。「¥Q」コマンドと同じ機能です。		

& S

機能:	DR 信号制御の設定をします。		
書式:	AT&S<パラメータ 1>		
パラメータ:	<パラメータ 1>	0	: ER-ON 時には常に DR-ON (初期値)
		1	: 通信中は常に DR-ON
入力例:	AT&S1		

& Z

機能:	短縮番号を登録します。		
書式:	AT&Z<パラメータ 0><=パラメータ 1></パラメータ 2>		
パラメータ:	<パラメータ 0>	短縮番号。0 ~ 9 の数字。	
	<パラメータ 1>	相手アドレス	
	<パラメータ 2>	相手サブアドレス	
入力例:	AT&Z0=012345678/910		
補足:	相手アドレスは数字で最大 32 桁使用できません 相手サブアドレスは数字で最大 19 桁使用できます。また、「/」以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。「/」は「/S」コマンドで変更できます。 末尾に「CB」をつけたスタイルスコールバックをおこなう電話番号は登録できません。		

C

機能:	データポートの通信料金、切断理由コードなどを表示します。		
書式:	AT # C		
パラメータ:	なし		
入力例:	AT # C		
補足:	CAUSE	「= #」の後に切断理由コードを表示します。 (P.315)	
	SOURCE	「=」の後に生成源を表示します。(P.318)	
	CHARGE	「=¥」の後に通信料金を表示します。	

H

機能:	データポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。		
書式:	AT # H		
パラメータ:	なし		
入力例:	AT # H		
補足:	通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。 登録されていない場合、「BUFFER EMPTY」と表示します。		

H A

機能:	アナログ A ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。		
書式:	AT # HA		
パラメータ:	なし		
入力例:	AT # HA		
補足:	通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。 登録されていない場合、「BUFFER EMPTY」と表示します。		

HB

機能： アナログ B ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT # HB
パラメータ： なし
入力例： AT # HB
補足： 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合、「BUFFER EMPTY」と表示します。

HPA・# HPB・# HPC・# HPD・# HPE・# HPF

機能： 無線 A ポート～無線 F ポートの通知番号を表示します。
書式： AT # HPA (~ F)
パラメータ： なし
入力例： AT # HPA
補足： 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合、「BUFFER EMPTY」と表示します。

HSA・# HSB・# HSC・# HSD・# HSE・# HSF

機能： 無線 A ポート～無線 F ポートの登録状況を表示します。
書式： AT # HSA (~ F)
パラメータ： なし
入力例： AT # HSA
補足： 登録されている場合「/91」(REG)、登録されていない場合「BUFFER EMPTY」と表示します。(数字の部分は各ポートの内線番号になります。)

M

機能： PIAFS の設定と表示をします。
書式： AT # M<=パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : PIAFS 通信する
 1 : 非同期通信する(初期値)
 ? : 設定内容の表示
入力例： AT # M = 0
補足： 「# M」での設定は「\$N1」コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
PIAFS 通信時の速度(32k/64k)は「\$N15」コマンドで設定します。

R

機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT # R
パラメータ： なし
入力例： AT # R

Z

機能： データポートの通知番号を登録します。
書式： AT # Z<パラメータ 1> </パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
 <パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例： AT # Z012345678/910
補足： 通知番号は数字で最大 32 桁使用できます。
自己サブアドレスは数字で最大 19 桁使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。

ZA

機能： アナログ A ポートの通知番号を登録します。
書式： AT # ZA<パラメータ 1> </パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
 <パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例： AT # ZA012345678/2222

補足: 通知番号は数字で最大 32 桁使用できます。
自己サブアドレスは数字で最大 19 桁使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。

Z B

機能: アナログ B ポートの通知番号を登録します。
書式: AT # ZB<パラメータ 1></パラメータ 2>
パラメータ: <パラメータ 1> 通知番号
<パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例: AT # ZB012345678/3333
補足: 通知番号は数字で最大 32 桁使用できます。
自己サブアドレスは数字で最大 19 桁使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。

Z P A ・ # Z P B ・ # Z P C ・ # Z P D ・ # Z P E ・ # Z P F

機能: 無線 A ポート～無線 F ポートの通知番号を登録します。
書式: AT # ZP (A ~ F) <パラメータ 1></パラメータ 2>
パラメータ: <パラメータ 1> 通知番号
<パラメータ 2> 自己サブアドレス
入力例: AT # ZPA012345678/2222
補足: 通知番号は数字で最大 32 桁使用できます。
自己サブアドレスは数字で最大 19 桁使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。
この通知番号は ISDN 網のダイヤルイン番号に相当します。
この通知番号は ISDN 網に有効となるアドレスとなります。

* H

機能: 着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。
書式: AT * H
パラメータ: なし
入力例: AT * H

* P C

機能: i・ナンバーの発信と情報を設定します。
書式: AT * PC<パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ: <パラメータ 1> A、B: アナログポート
N: データポート
PA、PB、PC、PD、PE、PF: 無線ポート
<パラメータ 2> i・ナンバー情報
1,2
入力例: AT * PCA=1
補足: 初期値は、B=2 それ以外 =1

* P N

機能: i・ナンバー情報の電話番号を設定します。
書式: AT * PN<パラメータ 1><= パラメータ 2><,パラメータ 3>
パラメータ: <パラメータ 1>i・ナンバー情報
<パラメータ 2> 電話番号
<パラメータ 3> 内線指定番号
入力例: AT * PN1=0312345678

* P R

機能: i・ナンバーの着信、i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT * PR<パラメータ 1><= パラメータ 2><,パラメータ 3>
パラメータ: <パラメータ 1>A、B(アナログポート)、N(データポート)、P、PA、PB、PC、
PD、PE、PF(無線ポート)
<パラメータ 2>i・ナンバー情報
<パラメータ 3>i・ナンバー情報
入力例: AT * PRA=1,2
補足: 初期値は A=1、B=2、N=1,2、P,PA=1,2、他 = 設定なし

* P X 1

機能： i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。
書式： AT * PX1<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0：使用しない（初期値）
1：使用する
入力例： AT * PX1=1

* P ?

機能： i・ナンバーに関する設定内容を表示します。
書式： AT * P?
パラメータ： なし
入力例： AT * P?

* Z

機能： 着信番号と内線指定番号を最大 8 個まで登録します。
書式： AT * Z<パラメータ 1>< = パラメータ 2><, パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ~ 7：テーブル番号
<パラメータ 2> 着信番号（電話番号）
<パラメータ 3> 内線指定番号
入力例： AT * Z1 = 1234567890, 1111
補足： 通知番号は数字で最大 32 桁使用できます。
内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。数字で最大 4 桁使用できます。

* Z A

機能： アナログ A ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * Z A = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8>
パラメータ： <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8> : 0 ~ 7
(「* Z」コマンドで登録したテーブル番号)
入力例： AT * Z A = 0, 2, 3, 7
補足： 1 つのポートに最大 8 つまで割り当てることができます。
本コマンドで登録された番号で着信判定をおこないます。
内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。

* Z B

機能： アナログ B ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * Z B = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8>
パラメータ： 「* Z A」と同じです。
入力例： AT * Z B = 0, 2, 3, 7
補足： 「* Z A」と同じです。

* Z D

機能： データポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * Z D = <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8>
パラメータ： * Z A と同じです。
入力例： AT * Z D = 0, 2, 3, 7
補足： 「* Z A」と同じです。
内線指定番号は無視されます。

* Z P A ・ * Z P B ・ * Z P C ・ * Z P D ・ * Z P E ・ * Z P F

機能： 無線 A ポート～無線 F ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * Z P (A ~ F) <パラメータ 1>< / パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> ~ <, パラメータ 8> : 0 ~ 7
(* Z P コマンドで登録したテーブル番号)

¥ S

- 機能： データポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
書式： AT¥S<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1>
- 0： データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、非同期/同期PPPモード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示します。
 - 1： Sレジスタの内容をSレジスタ名とともに表示します。
 - 2： リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態を表示します。
 - 3： Sレジスタの内容を表示します。

入力例： AT¥S0

\$ A

- 機能： アナログAポートの設定と表示をします。
書式： AT\$A<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1><=パラメータ 2>
- 0： 設定内容の表示
 - 1： アナログポート選択
 - 1=0： 電話で使用する(初期値)
 - 1=1： ファクスやモデムで使用する
 - 1=2： 使用しない
 - 2： キャッチホン選択
 - 2=0： 使用しない(初期値)
 - 2=1： INSキャッチホンを使用する
 - 2=2： 疑似キャッチホンを使用する
 - 3： 識別着信設定
 - 3=0： 識別着信しない(初期値)
 - 3=1： INSなりわけ識別着信
 - 3=2： (疑似)識別着信
 - 3=3： INSなりわけ選択キャッチホン
 - 3=4： 疑似選択キャッチホン
 - 4： HLC設定
 - 4=0： HLCを設定しない(初期値)
 - 4=1： HLCを設定し着信判定する
 - 4=2： HLCを設定するが着信判定しない
 - 5： グローバル着信選択
 - 5=0： 着信する(初期値)
 - 5=1： 着信しない
 - 6： サブアドレスなし着信選択
 - 6=0： 着信する(初期値)
 - 6=1： 着信しない
 - 7： ダイヤル桁間タイマ設定
 - 7=0： 5秒(初期値)
 - 7=1： 9秒
 - 7=2： 11秒
 - 7=3： 13秒
 - 8： フッキング検出タイマ設定
 - 8=0： 0.03秒～1秒
 - 8=1： 0.3秒～1秒(初期値)
 - 8=2： 0.5秒～1.5秒
 - 9： 発信者番号通知設定
 - 9=0： 発信者番号通知しない
 - 9=1： 発信者番号通知する
 - 9=2： INSネット64申込内容に従う(初期値)
 - 10： 受話音量の設定

- 10=0: 小音
- 10=1: 中音 (初期値)
- 10=2: 大音
- 11: 情報通知サービス設定
 - 11=0: 情報通知サービスしない (初期値)
 - 11=1: ナンバー・ディスプレイを使用する
 - 11=2: モデム・ダイヤルインを使用する
 - 11=3: アナログ・ダイヤルインを使用する
 - 11=4: ナンバー・ディスプレイ+モデム・ダイヤルインを使用する
- 12: 情報通知サービス (サブアドレス) 設定
 - 12=0: サブアドレスはつけない (初期値)
 - 12=1: サブアドレスもつける
- 13: リバースパルス送出設定
 - 13=0: 送出しない (初期値)
 - 13=1: 送出する
- 14: 通話中の受話音量変更
 - 14=0: * # 入力で受話音量を変更しない (初期値)
 - 14=1: * # 入力で受話音量を変更する
- 15: 識別リング設定
 - 15=0: 使用しない (初期値)
 - 15=1: INS なりわけ
 - 15=2: 疑似なりわけ
- 16: CTIモード設定
 - 16=0: 使用しない (初期値)
 - 16=1: 使用する
- 18: キャッチホン・ディスプレイ設定
 - 18=0: 使用しない (初期値)
 - 18=1: 使用する

入力例: AT\$A3=1
 補足: HLCを設定した場合、電話を選択していればHLCは「電話」に、ファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。
 12「情報通知サービス (サブアドレス)」は11「情報通知サービス」を「1」「2」「4」に設定したときに利用できます。
 11 = 0 のときは12の設定は動作に関係しません。

\$ B

機能: アナログBポートの設定と表示をします。
 書式: AT\$B<パラメータ 1><= パラメータ 2>
 パラメータ: 「\$A」と同じです。
 入力例: AT\$B4=1

\$ D

機能: 2つのアナログポートに共通する設定と表示をします。
 書式: AT\$D<パラメータ 1><= パラメータ 2>
 パラメータ: <パラメータ 1><= パラメータ 2>
 0 : 設定内容の表示
 2 : 停電時のリング制御
 2=0: 着信時リングでなくブザーが鳴る
 2=1: 着信時リングが鳴る (初期値)
 2=3: 着信を受け付けない
 3 : 優先着信ポートの指定
 3=0: 指定しない (初期値)
 3=1: Aポート優先
 3=2: Bポート優先
 4 : 内線通話・転送機能使用可否
 4=0: 使用しない
 4=1: 使用する (初期値)
 5 : 三者通話使用可否
 5=0: 使用しない (初期値)
 5=1: 三者通話を使用する
 5=2: 疑似三者通話を使用する

- 6 : 通信中転送使用可否
6=0 : 使用しない (初期値)
6=1 : 使用する
- 7 : お出かけ設定
7=1 : おやすみモード (初期値)
7=2 : 電話着信転送モード
7=3 : ボイスワープ転送モード
7=4 : フラッシュモード
- 8 : ボイスワープ転送モード設定
8=1 : 無条件転送 (初期値)
8=2 : 無応答時転送
8=3 : 話中時転送
8=4 : 無応答 or 話中時転送
- 9 : アナログポート [#] 発信設定
9=0 : 使用しない (# , # # で発信しない)
9=1 : # 発信する (初期値)
9=2 : # # 発信する

入力例 : AT\$D3=2
補足 : <パラメータ 1>の 4, 5, 6 は無線ポートも一緒に設定されます。

\$ H

機能 : アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレス設定状態を表示します。
書式 : AT\$H
パラメータ : なし
入力例 : AT\$H
補足 : 着信番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。登録されていない場合は、「BUFFER EMPTY」と表示します。

\$ L

機能 : 液晶ディスプレイの設定と表示をします。
書式 : AT\$L<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ : <パラメータ 1><=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
1 : バックライトの設定
1=0 : 常に消灯
1=1 : 常に点灯
1=2 : AUTO (初期値)
1=3 : AUTO + データ通信中は常に点灯
1=4 : AUTO + B チャンネル使用中は常に点灯
2 : アナログ発信時の発信ダイヤル表示
2=0 : ダイヤル番号を表示しない
2=1 : ダイヤル番号を表示する (初期値)

入力例 : AT\$L1=1
補足 : データ発信時は常にダイヤル番号を表示します。

\$ M

機能 : データポートの 128kbps マルチリンク PPP 通信の設定と表示をします。
書式 : AT\$M<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ : <パラメータ 1><=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
1 : マルチリンク通信設定
1=0 : 128kbps マルチリンク PPP 通信しない (初期値)
1=1 : 128kbps マルチリンク PPP 通信する
2 : リソース BOD 選択
2=0 : リソース BOD をおこなわない (初期値)
2=1 : リソース BOD をおこなう
3 : スループット BOD 選択
3=0 : スループット BOD をおこなわない (初期値)
3=1 : スループット BOD をおこなう
4 : リンク追加算出時間 (10 秒単位)
4=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 30 秒)

- 5 : リンク削除算出時間 (10 秒単位)
5=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 10 秒)
- 6 : リンク追加しきい値設定 (10% 単位)
6=60 ~ 90 : 60 ~ 90% (初期値 70%)
- 7 : リンク削除しきい値設定 (10% 単位)
7=10 ~ 40 : 10 ~ 40% (初期値 20%)
- 8 : 2 本目接続時の認証
8=0 : 認証しない
8=1 : 認証する (初期値)

\$ N

- 機能 : データポートの設定と表示をします。
書式 : AT\$N<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ : <パラメータ 1><=パラメータ 2>
- 0 : 設定内容の表示
 - 1 : 非同期 / 同期 PPP 変換選択
1=0 : 非同期 / 同期 PPP 変換しない (初期値)
1=1 : 非同期 / 同期 PPP 変換する
1=2 : PIAFS 通信する
 - 2 : 識別着信
2=0 : 識別着信しない (初期値)
2=1 : 識別着信する
 - 3 : HLC 設定
3= N : HLC を設定しない (初期値)
3=0 ~ 127
 - 4 : 着信速度チェック
4=0 : チェックしない (初期値)
4=1 : チェックする
 - 5 : グローバル着信選択
5=0 : 着信する (初期値)
5=1 : 着信しない
 - 6 : サブアドレスなし着信選択
6=0 : 着信する (初期値)
6=1 : 着信しない
 - 7 : 応答平均化機能
7=0 : 平均化しない (初期値)
7=1 : 平均化する
 - 8 : マルチポイント接続端末数
8=1 : 1 台 (初期値)
8=2 : 2 台
8=8 : 8 台
 - 9 : 無通信監視タイマ
9=0 : 監視しない
9=1 : 1 分
9=10 : 10 分 (初期値)
 - 10 : スタイルスコールバック使用
10=0 : コールバックしない (初期値)
10=1 : コールバックする
 - 11 : マルチリンク通信設定 (128kbps マルチリンク PPP)
11=0 : 通信しない (初期値)
11=1 : 通信する
 - 12 : 発信者番号通知設定
12=0 : 発信者番号を通知しない
12=1 : 発信者番号を通知する
12=2 : INS ネット 64 申込内容に従う (初期値)
 - 13 : PPP ACCM 付加選択
13=0 : 64kPPP、MP 時に ACCM を付加しない
13=1 : 64kPPP、MP 時に ACCM を付加する (初期値)
 - 14 : 強制切断タイマ
14=0 : 強制切断しない
14=1 : 1 時間で切断する
14=10 : 10 時間で切断する (初期値)

- 15 : PIAFS モード指定
 15=0 : PIAFS32k (初期値)
 15=1 : PIAFS64k
 15=2 : PIAFS2.1

入力例 :
 補足 :

AT\$N9=2
 「8」(マルチポイント接続端末数)は、「7」(応答平均化機能)を「1」に設定したとき(7=1)には必ず設定してください。
 「8」には同一回線に接続されているAtermの数を設定してください。
 「7=0」のときは「8」の設定値は動作に関係しません。
 「4」(着信速度チェック)で「チェックしない」(4=0)が異速度通信をおこなう動作になります。
 「\$N1=0」「\$N1=2」の設定は「#M」コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
 「\$N1=2」のときの通信速度(32k/64k)は「\$N15」コマンドで設定します。

\$ NP

機能 : データポートへのUUIメール通知モードを指定します。
 書式 : AT\$NP<パラメータ 1><=パラメータ 2>
 パラメータ : <パラメータ 1><=パラメータ 2>
 0 : 3の設定内容の表示
 3 : 外線データ着信時の優先着信レポート指定
 3=0 : データポート (初期値)
 3=1 : 無線ポート
 4 : UUIメール通知モード
 4=0 : 通知しない
 4=1 : 通知する (初期値)

入力例 : AT\$NP3=1

\$ P

機能 : 全無線ポートでの共通(一斉着信時の設定含む)の設定と表示をおこないます。
 書式 : AT\$P<パラメータ 1><=パラメータ 2>
 パラメータ : <パラメータ 1><=パラメータ 2>
 0 : 設定内容の表示
 1 : 音声呼の一斉着信(グローバル着信)時の無線ポート呼び出し
 1=0 : 全無線ポートを一斉呼び出しする(初期値)
 1=1 : 無線Aポートのみ呼び出す
 1=2 : 無線Bポートのみ呼び出す
 1=3 : 無線Cポートのみ呼び出す
 1=4 : 無線Dポートのみ呼び出す
 1=5 : 無線Eポートのみ呼び出す
 1=6 : 無線Fポートのみ呼び出す
 1=7 : 無線ポートは呼び出さない
 2 : データ呼の一斉着信(グローバル着信)時の無線ポート呼び出し
 2=1 : 無線Aポートのみ呼び出す
 2=2 : 無線Bポートのみ呼び出す
 2=3 : 無線Cポートのみ呼び出す
 2=4 : 無線Dポートのみ呼び出す
 2=5 : 無線Eポートのみ呼び出す
 2=6 : 無線Fポートのみ呼び出す
 2=7 : 無線ポートは呼び出さない(初期値)

入力例 : AT\$P1=1

\$ PA・\$ PB・\$ PC・\$ PD・\$ PE・\$ PF

- 機能： 無線 A ポート～F ポートの設定と表示をおこないます。
 書式： AT\$P (A～F) <パラメータ 1><=パラメータ 2>
 パラメータ： <パラメータ 1><=パラメータ 2>
- 0 : 設定内容の表示
 - 1 : ポート利用方法
 - 1=0 : PHS (初期値)
 - 1=1 : リモートステーション (デュアルリンクワイヤレス有効)
 - 1=2 : 使用しない (データ通信可)
 - 2 : キャッチホン選択
 - 2=0 : 使用しない (初期値)
 - 2=1 : INS キャッチホンを使用する
 - 2=2 : 疑似キャッチホンを使用する
 - 3 : 無線ポート用識別着信設定
 - 3=0 : 識別着信しない (初期値)
 - 3=1 : INS なりわけ識別着信
 - 3=2 : 疑似識別着信
 - 3=3 : INS なりわけ選択キャッチホン
 - 3=4 : 疑似選択キャッチホン
 - 7 : ダイアル桁間タイマ
 - 7=0 : 5 秒 (初期値)
 - 7=1 : 9 秒
 - 7=2 : 11 秒
 - 7=3 : 13 秒
 - 9 : 発信者番号通知モード設定
 - 9=0 : 発信者番号通知を禁止する
 - 9=1 : 発信者番号通知を許可する
 - 9=2 : 発信者番号通知モードを指定しない (初期値)
 - 10 : PIAFS データ発信時のプロトコル変換
 - 10=0 : ダイレクト通信をする (初期値)
 - 10=1～6 : 非同期
 - 10=7 : INS ネット 64 の回線速度を同期 64k に変換する
 - 11 : データ着信時の無線区間の通信モード指定
 - 11=0 : PIAFS 32k (初期値)
 - 11=1 : PIAFS 64k
 - 11=2 : デュアルリンクワイヤレス
 - 12 : UUI 通知モード
 - 12=0 : 通知しない (初期値)
 - 12=1 : 通知する
 - 13 : スティルスコールバックモード
 - 13=0 : コールバックしない (初期値)
 - 13=1 : コールバックする
 - 14 : CTI
 - 14=0 : CTI しない (初期値)
 - 14=1 : CTI する

入力例： AT\$PA1=1

\$ S

- 機能： AT コマンドで設定したパラメータや自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。
 書式： AT\$S
 パラメータ： なし
 入力例： AT\$S
 補足： 電話帳、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号、着信転送先アドレス、着信転送元アドレスなどはその都度保持されるので、本コマンドは必要ありません。
 リザルトコード「OK」が返るまでに 30 秒程度かかります。

\$ X

機能： 着信転送や選択着信転送の種類を設定します。
書式： AT\$X<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1><=パラメータ 2>
0 : 着信転送の種類の設定
0=1 : NTT 着信転送
0=2 : 疑似着信転送 (初期値)
0=3 : 電話番号着信転送 (遊遊メール)
1 : 選択着信転送の種類の設定
1=0 : 無条件転送 (初期値)
1=1 : INS なりわけ時転送
1=2 : 識別着信時転送

入力例： AT\$X0=1
補足： 本コマンドとあわせて、「\$Y」「\$YM」「\$Z」コマンドを設定してください。

\$ Y

機能： アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。
書式： AT\$Y<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 着信転送先 (0) アドレス
1 : 着信転送先 (1) アドレス
2 : 着信転送先 (2) アドレス
<パラメータ 2> 転送先アドレス (電話番号)

入力例： AT\$Y0=0123456789
補足： 本コマンドとあわせて、「\$Z」コマンドで転送元を設定してください。
相手電話番号は数字で最大 32 桁使用できます。
着信転送先の設定はアドレスのみです。サブアドレスは設定できません。

\$ YM

機能： 着信転送を電話番号着信転送 (遊遊メール) でおこなう際の転送先のメールアドレスを登録します。
書式： AT\$YM<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 着信転送先 (0) メールアドレス
1 : 着信転送先 (1) メールアドレス
2 : 着信転送先 (2) メールアドレス
<パラメータ 2> 転送先アドレス (半角英数字、記号)

入力例： AT\$YM0=abc@def.ghi.co.jp
補足： 転送先メールアドレスは最大 40 文字まで設定できます。

\$ Z

機能： アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
書式： AT\$Z<パラメータ 1><=パラメータ 2></パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 着信転送元 (0) アドレス
1 : 着信転送元 (1) アドレス
2 : 着信転送元 (2) アドレス
5 : トーキあり / なしの設定
<パラメータ 2> 転送元アドレス (電話番号)
次はパラメータ 1 が 5 のときに使用
0 : 転送トーキなし、転送元トーキなし
1 : 転送トーキあり、転送元トーキなし
2 : 転送トーキなし、転送元トーキあり
3 : 転送トーキあり、転送元トーキあり (初期値)
<パラメータ 3> 転送元サブアドレス

入力例： AT\$Z0=9876543210
AT\$Z5=0

補足： 本コマンドとあわせて、「*Z」コマンドで着信番号を設定してください。また、「\$Y」「\$YM」コマンドで転送先を設定してください。
転送元アドレスは数字で最大 32 桁使用できます。

!SZ

機能： 疑似識別着信（セキュリティ + 選択キャッチホン）用アドレスを登録します。
書式： AT!SZ<パラメータ 1> = <パラメータ 2></パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1>0 ~ 29（最大 30 件登録可）
<パラメータ 2>相手電話番号
<パラメータ 3>相手サブアドレス（最大 19 桁）
入力例： AT!SZ0=1234567890/123
補足： サブアドレスのみ登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

!UC

機能： 迷惑電話防止用アドレスに登録されている電話番号を削除します。
書式： AT!UC=<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1>相手電話番号、P、C、O
（P：ヒツウチ、C：コウシュウデンワ、O：ヒョウジケンガイ）
入力例： AT!UC=1234567890
補足： 入力されたアドレスが全桁一致した場合のみ登録は削除されます。
一致しない場合は「ERROR」と表示します。

!UH

機能： 迷惑電話防止用アドレスの情報を表示します。
書式： AT!UH
パラメータ： なし
入力例： AT!UH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!US

機能： 迷惑電話防止用アドレスを登録します。
書式： AT!US<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1>相手電話番号、P、C、O
（P：ヒツウチ、C：コウシュウデンワ、O：ヒョウジケンガイ）
入力例： AT!US=1234567890
補足： すでに登録されているアドレスを再度入力した場合は「Already exist」と表示され、データは更新されません。
最大 20 件まで登録できます。
相手電話番号は数字で最大 15 桁まで登録できます。

!VH

機能： ボイスワープ設定電話番号の登録情報を表示します。
書式： AT!VH
パラメータ： なし
入力例： AT!VH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!VZ

機能： ボイスワープ起動電話番号を登録します。
書式： AT!VZ<パラメータ 1> = <パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1>：ボイスワープ番号。0 ~ 4, 9
<パラメータ 2>起動電話番号または契約電話番号（契約電話番号、全 32 桁まで）
入力例： AT!VZ0 = 1420
補足： 起動電話番号は初期値のデータがあります。

!WH

機能： 疑似識別リング用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!WH
パラメータ： なし
入力例： AT!WH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!WZ

機能： 疑似識別リングング用アドレスを登録します。
 書式： AT!WZ<パラメータ 1>=<パラメータ 2></パラメータ 3>
 パラメータ： <パラメータ 1>0 ~ 29 (最大 30 件登録可)
 <パラメータ 2> 相手電話番号
 <パラメータ 3> 相手サブアドレス (最大 19 桁)
 入力例： AT!WZ0=1234567890/123
 補足： サブアドレスのみ登録されている場合は「ERROR」と表示します。
 相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

!X

機能： マイブライベート着信の設定をします。
 書式： AT!X0=<パラメータ 1>
 パラメータ： <パラメータ 1> 0：使用しない(初期値)
 1：使用する
 入力例： AT!X0=1

!Z

機能： マイブライベート着信する相手電話番号と着信するポートの設定をします。
 書式： AT!Z<パラメータ 1>=<パラメータ 2></パラメータ 3><:/パラメータ 4>
 パラメータ： <パラメータ 1>0 ~ 29 (最大 30 件登録可)
 <パラメータ 2> 相手電話番号、P、C、O
 (P：ヒツウチ、C：コウシュウデンワ、O：ヒョウジケンガイ)
 <パラメータ 3> 相手サブアドレス (最大 19 桁)
 <パラメータ 4>A、B、PA、PB、PC、PD、PE、PF：着信ポート番号
 入力例： AT!Z0=1234567890/123;A,B
 補足： サブアドレスと着信ポートのみ登録されている場合は「ERROR」と表示します。
 相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

S レジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	内容	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	「RING」を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	12 (CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ~ 32 , 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信後、所定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間 *1	0 ~ 100	*2	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしません				

*1 CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみ有効です。

*2 CS遅延時間はS26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。

「AUTO」は設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」~「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値をたした時間になります。

S26値	CS遅延時間
0	AUTO (0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

リザルトコード

リザルトコード一覧

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION : V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION : NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL:PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

ATコマンド
用語集

ATコマンド
機能編

ATコマンド
設定編

困ったときは

付録

索引

コードの詳細

BUSY

機能： 相手話中のため接続に失敗したときに送じます。
書式： BUSY
出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
次の条件の時に送じます。
(1) コマンドが正常であったとき(「A」「D」「O」コマンド実行時なし)
(2) エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
(3) オンラインコマンドモード時に「ATH」コマンドが入力され通信が切断されたとき
書式： OK
出力例： OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送じます。
書式： CONNECT<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> なし : 相手と通信状態になりました。
(ベーシックリザルトコードセットのみ)
1200 : 回線速度が 1200bps で接続完了しました。
2400 : 回線速度が 2400bps で接続完了しました。
4800 : 回線速度が 4800bps で接続完了しました。
9600 : 回線速度が 9600bps で接続完了しました。
14400 : 回線速度が 14400bps で接続完了しました。
19200 : 回線速度が 19200bps で接続完了しました。
28800 : 回線速度が 28800bps で接続完了しました。
32000 : 回線速度が 32000bps で接続完了しました。
38400 : 回線速度が 38400bps で接続完了しました。
57600 : 回線速度が 57600bps で接続完了しました。
64000 : 回線速度が 64000bps で接続完了しました。
出力例： CONNECT 38400

RING

機能： 着信があった場合、応答するまで 2 秒間隔で通知します。
書式： RING<パラメータ 1>< /パラメータ 2>< [パラメータ 3]>
パラメータ： <パラメータ 1> 発信側のアドレス
<パラメータ 2> 発信側のサブアドレス
<パラメータ 3> ユーザ・ユーザデータ
出力例： RING
補足： 発信側のアドレス以降を付加させるには「W」コマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときに送じます。
また、通信中ならぬ原因で切断した場合も送じます。
書式： NO CARRIER
パラメータ： なし
出力例： NO CARRIER

ERROR

機能：

次の条件の時に送出します。

- (1) 不正なコマンドが入力されたとき
- (2) コマンド入力が最大文字数を越えたとき
- (3) 「D」コマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
- (4) パソコンのER信号がOFFのときに発信したとき
- (5) アナログポートを使用しているときに「\$A」「\$B」「\$D」コマンドで設定しようとしたとき

書式：

ERROR

出力例：

ERROR

COMPRESSION : NONE

機能：

PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。

書式：

COMPRESSION : NONE

出力例：

CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE

補足：

PIAFS 通信の V.42bis 圧縮なしで接続したときのみ表示します。

PROTOCOL : PIAFS

機能：

PIAFS 通信で接続したときに送出します。

書式：

PROTOCOL : PIAFS

出力例：

CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE

補足：

PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION : V.42bis

機能：

PIAFS 通信の V.42bis データ圧縮で接続したときに送出します。

書式：

COMPRESSION : V.42bis

出力例：

CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : V.42bis

補足：

PIAFS 通信の V.42bis 圧縮ありで接続したときのみ表示します。

4 . 液晶ディスプレイの表示

AtermIW50/D 前面にあるバックライト付き液晶ディスプレイには、Aterm の設定内容や通信状態などの情報が表示されます。

↑ A B ⇄ B1 B2 RDY

使用中の機器や通信状態を絵文字（ピクトグラム）で表示します。（無線通信では表示されないものもあります。）
電話番号や通信料金、機能設定中の案内表示を 12 文字 × 2 行（英数カナ）で表示します。

絵文字（ピクトグラム）

- ↑** フレックスホンの着信転送や疑似着信転送が設定してあるときに表示されます。
- A B** アナログ A、B ポートに接続された通信機器の受話器を上げているときに表示されます。
- ⇄** データポートを使用したデータ通信中に表示されます。
 - ➡** 1 つの B チャンネルでデータ通信中（64kbps）
 - ⇄** 2 つの B チャンネルでデータ通信中（128kbps）
- B1 B2** B1、B2 チャンネルを使用中に表示されます。
- RDY** データポートに接続されたパソコンの ER（Equipment Ready）信号が ON のときに表示されます。

電源を入れた後の表示

動作	液晶ディスプレイの表示	備考
INS ネット 64 の同期がとれているとき	12月 1日 9:47	日時は例
INS ネット 64 の同期がとれていないとき	カイセンショウカ・イ レイヤ1ダウン	レイヤ1がはずれているとき
INS ネット 64 の同期がとれていないとき	カイセンショウカ・イ レイヤ2ダウン	レイヤ2がはずれているとき

通信状態の表示

アナログポート使用時

	動作	液晶ディスプレイの表示	備考
発信	電話機の手受器を上げる	 12月 1日 9:47	アナログAポート使用の場合
	発信中	 アナログ [°] A ハッシン XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXは相手の電話番号
	発信後20秒経過	 12月 1日 9:47	
	相手応答	 12月 1日 B1 9:47	B1チャンネル使用の場合
着信	着信あり	アナログ [°] チャクシン XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXは相手の電話番号
	電話機の手受器を上げる	 12月 1日 B1 9:47	アナログAポート、B1チャンネル使用の場合
切断	切断後	アナログ [°] A セツダ [°] ン YYY ZZZ円	YYY: 切断理由 ZZZ: 通話料金(発信時のみ)
	切断後20秒経過	12月 1日 9:47	
着信転送	着信転送設定時、着信あり	 アナログ [°] チャクシン XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXは相手の電話番号
	転送完了	 テンソウシマシタ	転送失敗時は 「テンソウシッパイ」
	転送後5秒経過	 12月 1日 9:47	
内線転送	内線発信中	 アナログ [°] チャクシン ナイセン A B	アナログAポートからBポートに発信する場合
	内線通話中	 12月 1日 9:47	

Analog Aを使用する時

Analog Aを使用する時
機能編

Analog Aを使用する時
設定編

困ったときには

付録

索引

データポート使用時

	動作	液晶ディスプレイの表示	備考
発信	パソコンに発信コマンドを入力	データ ハッシン RDY XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXは相手の電話番号
	発信後20秒経過	12月 1日 9:47 RDY	
	相手応答	12月 1日 9:47 B1 RDY	B1チャンネル使用の場合
着信	パソコンに着信あり	データ チャクシン RDY XXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXは相手の電話番号
	通信中	12月 1日 9:47 B1 RDY	B1チャンネル使用の場合
切断	切断後	データ セツタン RDY YYY ZZZ円	YYY: 切断理由 ZZZ: 通話料金(発信時のみ)
	切断後20秒経過	12月 1日 9:47	

でかけるボタンロック

	動作	液晶ディスプレイの表示	備考
	でかけるボタンをロックしたとき	でかケルボタンヲ ロックシマシタ	設定時5秒間表示
	でかけるボタンのロックを解除したとき	でかケルボタンヲ ロックカイシヨシマシタ	設定時5秒間表示

お出かけ設定時の表示

動作	液晶ディスプレイの表示	備考
おやすみモードを設定しているとき	12月 1日 9:47 オヤスミ	
電話着信転送モードを設定しているとき	12月 1日 9:47 デ ^レ ンウテ ^ン ソウ	
ボイスワープ転送モードを設定しているとき	12月 1日 9:47 ボ ^ク イスワープ ^ク	
フラッシュモードを設定しているとき	12月 1日 9:47 フラッシュ	

INS ナンバー・ディスプレイを利用しているときの表示

INS ネット 64 が相手の電話番号を通知してきた場合、Aterm の液晶ディスプレイに着信した電話番号が表示されます。液晶ディスプレイに電話番号が表示されるのは、次の場合です。

相手が INS ネット 64 に加入していて、発信者番号通知をする設定になっているとき
デジタル携帯電話または PHS からの着信で、発信者番号通知をする設定になっているとき

INS ナンバー・ディスプレイを契約していて、相手がアナログ網からの発信で番号通知サービスを「184」などで解除しなかったとき

キャッチホン・ディスプレイをご利用の場合も表示される内容は同じです。

相手の電話番号が通知されない着信の場合

動作	液晶ディスプレイの表示	備考
相手が「回線ごと非通知」または「184」を付けた場合の着信時	アナログ ^ク チャクシン P: ヒツウチ	
相手が公衆電話からかけた場合の着信時	アナログ ^ク チャクシン C: コウシュウテ ^ク ンウ	
相手がサービス地域以外からかけた場合の着信時	アナログ ^ク チャクシン 0: ヒョウジ ^ク ケンガ ^ク イ	

ディスプレイ表示の切り替え

液晶ディスプレイに表示されている日付・時刻表示を、機種名の表示にすることができます。

日付・時刻表示

- ① 電話機の受話器を上げます。
- ② * * 8 1 1 を押します。
- ③ 受話器を置きます。

12月 1日 9:47

機種名表示

- ① 電話機の受話器を上げます。
- ② * * 8 1 0 を押します。
- ③ 受話器を置きます。

AtermIW50

5 . 切断理由 / 診断情報 / 生成源表示一覧

切断理由表示

回線が切断された理由をコードで表示します。コードは「AT#C」コマンドを実行したとき、または『IW50らくらくユーティリティ』で確認することができます。(Windows P.186、Macintosh P.202)

	コード	理由
正常クラス	001	欠番
	002	中継網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャンネル不許可
	007	設定済みのチャンネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼出中、応答なし
	020	加入者不在
	021	相手ユーザ通知拒否
	022	相手端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末故障中
	028	無効番号フォーマット(不完全番号)
リソース使用不可クラス	034	利用可回線 / チャンネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
	044	要求チャンネル利用不可
	047	その他
サービス提供付加クラス	049	QOS利用不可
	050	要求されたファシリティ不可
	057	伝達能力不許可
	058	現在利用不可伝達能力
	063	その他

	コード	理由
サービス未提供クラス	065	未提供伝達能力指定
	066	未提供チャネル種別指定
	069	未提供ファシリティ要求
	070	制限デジタル情報能力のみ可能
	079	その他
無効メッセージクラス	081	無効呼番号使用
	082	無効チャネル番号使用
	083	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	085	中断呼なし
	086	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	087	ユーザはCUGのメンバーではない
	088	端末属性不一致
	091	無効中継網選択
手順誤りクラス	095	その他
	096	必須情報要素不足
	097	メッセージ種別未定義
	098	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義
	099	情報要素なし、または未定義
	100	無効情報要素内容
	101	呼状態とメッセージ不一致
	102	タイム満了の回復
インタワーキング	111	その他
	127	その他

診断情報表示

着信を拒否した理由をコードで表示します。コードは「AT#L」コマンドを実行したとき、または『IW50らくらくユーティリティ』で確認することができます。(Windows P.186, Macintosh P.202)

コード	診断情報
000	本ポートは正常に着信を受け付けました。
201	本ポートは使用中のため着信を受け付けませんでした。
211	本ポートの着信番号設定とINSネット64からの宛先番号が一致していないため、着信を受け付けませんでした。着信番号設定を確認してください。
212	本ポートのグローバル着信設定が「着信しない」に設定されているため、グローバル着信を受け付けませんでした。グローバル着信設定を確認してください。
213	本ポートの自己サブアドレス設定とINSネット64からの宛先サブアドレスが一致していないため、着信を受け付けませんでした。自己サブアドレス設定を確認してください。
214	本ポートのサブアドレスなし着信設定が「着信しない」に設定されているため、サブアドレスなし着信を受け付けませんでした。サブアドレスなし着信設定を確認してください。
215	本ポートの識別着信設定が「着信する」になっており、識別番号設定に相手からの発信番号と一致するものがなかったため着信を受け付けませんでした。識別着信設定、および識別番号設定を確認してください。
221	着信があったポートのHLC設定がINSネット64からの着信通知の中のHLCと一致しませんでした。HLCの設定を確認してください。
231	パケット端末からの着信がありましたが、着信を拒否しました。
301	スタイルスコールバック要求の着信がありましたが、着信を受けることができませんでした。スタイルスコールバックが「使用する」になっているか設定を確認してください。
302	スタイルスコールバック要求に対してサーバ側がかけ直しているときに別の着信がありましたが、その着信を拒否しました。
311	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力情報転送速度が64kbps以外の着信でした。
312	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ情報レイヤ1プロトコルが違っていました。
313	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ速度が56kbpsだったので、着信を拒否しました。
321	INSネット64からの着信通知の中にLLC速度情報が含まれていなかったため、着信を拒否しました。
322	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本TAの受けられない速度でした。通信相手機器を確認してください。
323	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本TAの速度設定と不一致でした。「着信速度チェックしない」に設定し、通信速度が異なるパソコン同士でも通信できるようにしてください。
324	INSネット64からの着信通知の中のLLC同期 / 非同期が同期であるが、速度が64kbps以外の着信のため拒否しました。
325	INSネット64からの着信通知の中のLLC中間速度が本TAの受けられない速度のため拒否しました。
326	INSネット64からの着信通知の中のLLCフロー制御が本TAの設定と不一致でした。本TAのフロー制御方式の設定をしてください。
327	INSネット64からの着信通知の中のLLCストップビット長、データビット長、パリティ情報が本TAの設定と不一致でした。通信相手と設定を合わせてください。
331	G4ファクシミリからの着信でした。相手側の装置を確認してください。

コード	診断情報
341	データポート通信中、またはアナログポート通信中で2チャンネル使用中のため、着信が受け付けられませんでした。
361	応答平均化機能が「使用する」に設定されており、着信できる順番でないため着信を無視しました。
371	電子メール着信通知またはUIメール通知がありました。
401	停電時のアナログ着信設定は「着信しない」になっているため、着信を受け付けませんでした。停電時着信設定を確認してください。
402	停電中のためアナログBポートへの着信は受け付けませんでした。
411	アナログポートの設定が「使用しない」になっているため着信を受け付けませんでした。アナログポート設定を確認してください。
421	内線通話中にチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
422	使用していないアナログポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信は、キャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
423	疑似キャッチホン設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信は、キャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
424	キャッチホンなしの設定ポートにチャンネルなしの着信を受けました。チャンネルなしの着信は、キャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
431	優先着信ポートの設定がされているため、優先着信ポートが着信を受けました。そのため優先着信ポートでないアナログポートには着信しませんでした。
999	その他の理由

生成源表示

回線を切断した場所をコードで表示します。コードは「AT#C」コマンドを実行したとき、または『IW50らくらくユーティリティ』で確認することができます。(Windows P.186、Macintosh P.202)

コード	場所
00	ユーザ自身
01	ユーザが直接接続する私設網
02	ユーザが直接接続する国内網
03	中継網
04	相手ユーザが直接接続する国内網
05	相手ユーザが直接接続する私設網
07	国際網
10	インタワーキング先の網

6 . Aterm をバージョンアップする

6-1 . Windows®98/Windows®95/ WindowsNT®4.0 でバージョンアップする

AtermIW50/Dに接続したWindows98/Windows95/WindowsNT4.0で、AtermIW50/Dのバージョンアップをおこないます。この操作によりファームウェアがバージョンアップし、AtermIW50/Dに新しい機能を追加することができます。

バージョン情報を見る

- 1 『IW50らくらくユーティリティ』を起動し、[IW50らくらくユーティリティ]画面の **バージョン** ボタンをクリックします。

ファームウェア情報が表示されます。



- 2 **OK** ボタンをクリックし、ファームウェア情報の表示を終了します。



「ファームウェア」とはAtermに内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれたソフトウェアのことをいいます。バージョンアップ中は電話を使うことはできません。リモートステーション（AtermRS20 など）にパソコンを接続している場合は、AtermIW50/Dをリモートステーションの近くに移動してください。リモートステーションからAtermIW50/Dのバージョンアップをすることはできません。

ファームウェアをダウンロードする

Aterm のホームページからファームウェアをダウンロードします。

- 1 **スタート** [プログラム] [Aterm IW50ユーティリティ] [IW50らくらくバージョンアップ] を選択します。
[らくらくバージョンアップ] 画面が表示されます。

- 2 **ホームページにアクセス** ボタンをクリックします。



自動的にプロバイダに電話をかけ、接続されるとブラウザが起動してAtermStationにアクセスします。

- 3 AtermStationのメニューの「Version Up」をクリックします。
- 4 「AtermIW50 シリーズ用ファームウェアやユーティリティ」をクリックします。
- 5 表示された内容をお読みになり目的のソフトウェアをダウンロードします。
ファイルがパソコンに保存されます。

6 ブラウザを終了します。

7 タスクトレイの「ダイヤルアップネットワークモニター」アイコンをダブルクリックし、**切断** ボタンをクリックして回線を切断します。

[しばらくバージョンアップ] 画面にもどります。

8 **バージョン** ボタンをクリックし、しばらくバージョンアップを終了します。

9 ダウンロードしたファイルを確認します。ダウンロードしたファームウェアやユーティリティは、ほとんどの場合圧縮された形になっています。そのままでは使えませんので、ダブルクリック (自己解凍形式のファイルの場合) または解凍ツールでの解凍をします。

解凍したファイルのファイル名と保存場所をメモしておきます。

10 「お読みください」や「ReadMe」ファイルがあるときは、内容を確認します。

ダウンロードしたファームウェアが拡張子「.exe」のファイルの場合は、そのファイルをダブルクリックすると自動的にバージョンアップが起動します。次項「バージョンアップを実行する」の 4 へ進んでください。

バージョンアップを実行する

ダウンロードしたファームウェアをAtermのメモリに書き込み、バージョンアップします。バージョンアップ中は電話を使うことはできません。

1 **スタート** [プログラム] [Aterm IW50 ユーティリティ] [IW50 しばらくバージョンアップ] を選択します。

[しばらくバージョンアップ] 画面が表示されます。

2 **次へ** ボタンをクリックします。

[AtermIW の確認] 画面が表示されます。



3 **次へ** ボタンをクリックします。

4 **参照** ボタンをクリックし、ダウンロードし保存しておいたファイルを指定します。



5

次へ ボタンをクリックします。

ファームウェアのファイル情報が表示されます。



6

実行 ボタンをクリックします。

バージョンアップが実行され、(POWER)ランプが赤色に点灯し、SD/RDランプが緑色に点滅します。

バージョンアップの途中で次のような画面が表示されたら、何らかの障害が発生したときです。その場合は **OK** ボタンをクリックし、再度バージョンアップを実行してください。



7

バージョンアップが終了すると、Aterm本体のPOWERランプが緑色に点灯します。



8

終了 ボタンをクリックします。



AtermIW50用ファームウェアは、他のAtermにダウンロードすることはできません。ダウンロードするとAtermが動作しなくなる場合があります。ファームウェアのバージョンアップによっては、IW50らしくユーティリティのバージョンアップが必要な場合があります。その場合はAtermStationに記載されていることをよくお読みになり、IW50らしくユーティリティもダウンロードしてください。

6-2 . Macintosh でバージョンアップする

AtermIW50/Dに接続したMacintoshで、AtermIW50/Dのバージョンアップをおこないます。この操作によりファームウェアがバージョンアップし、AtermIW50/Dに新しい機能を追加することができます。

バージョン情報を見る

1 『IW50らくらくユーティリティ』を起動し、[IW50らくらくユーティリティ簡易設定]画面を表示します。

2 メニューバーの  (アップルメニュー) をクリックし、[AtermIW50らくらくユーティリティについて] を選択します。

ファームウェア情報が表示されます。



3 ボタンをクリックして終了します。



「ファームウェア」とはAtermに内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれたソフトウェアのことをいいます。バージョンアップ中は電話を使うことはできません。リモートステーション (Aterm RS20 など) にパソコンを接続している場合は、AtermIW50/Dをリモートステーションの近くに移動してください。リモートステーションからAtermIW50/Dのバージョンアップをすることはできません。

ファームウェアをダウンロードする

Aterm のホームページからファームウェアをダウンロードします。

1 インターネットに接続します。
接続方法については第1編「プロバイダとの接続を確認する」(P.72)を参照してください。

2 Aterm のホームページにアクセスします。(URL = <http://aterm.cplaza.ne.jp>)

3 AtermStationのメニューの「Version Up」をクリックします。

4 「AtermIW50シリーズ用ファームウェアやユーティリティ」をクリックします。

5 表示された内容をお読みになり、目的のソフトウェアをダウンロードします。ファイルがパソコンに保存されます。

6 ブラウザを終了します。

7 [リモートアクセス] (または [PPP]) 画面の ボタンをクリックしてからクローズボックスをクリックし、回線を切断します。

8 ダウンロードしたファイルを確認します。ダウンロードしたファームウェアやユーティリティは、ほとんどの場合圧縮された形になっています。そのままでは使えませんので、ダブルクリック (自己解凍形式のファイルの場合) または解凍ツールでの解凍をします。

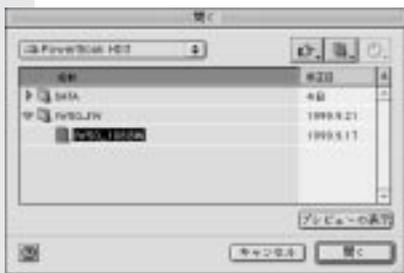
解凍したファイルのファイル名と保存場所をメモしておきます。

9 「お読みください」や「ReadMe」ファイルがあるときは、内容を確認します。

バージョンアップを実行する

ダウンロードしたファームウェアをAtermのメモリに書き込み、バージョンアップします。

- ① 「IW50 ユーティリティ」フォルダをダブルクリックします。
- ② 「IW50 らくらくバージョンアップ」アイコンをダブルクリックします。
ファイルを指定する画面が表示されます。
- ③ **ファイル** ボタンをクリックします。
- ④ ダウンロードしたファイルを選択し、**開く** ボタンをクリックします。

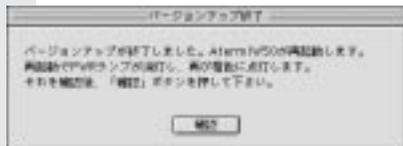


指定したファイルのファイル名が表示されます。

- ⑤ **開始** ボタンをクリックします。



バージョンアップを開始します。
バージョンアップが終了すると、確認画面が表示されます。



- ⑥ **確認** ボタンをクリックします。
- ⑦ **終了** ボタンをクリックします。



Aterm IW50 用ファームウェアを、他の Aterm で使用することはできません。あやまって使用すると Aterm が動作しなくなることがあります。
ファームウェアのバージョンによっては、IW50 らくらくユーティリティのバージョンアップが必要な場合があります。その場合は AtermStation に記載されていることをよくお読みになり、IW50 らくらくユーティリティをダウンロードしてください。

7. AtermIW50/D 製品仕様

AtermIW50/D 機能一覧

	AtermIW50/D (親機)	AtermRS20 (リモートステーション)
液晶ディスプレイ		(バックライトなし)
カレンダー表示		×
でかけるボタン		×
ファンクションボタン		×
MSG (Message) ランプ		×
S点ユニット/終端抵抗内蔵	オプション	×
高機能S点ユニット	オプション	×
停電モード		×
Ni-Cd充電電池対応	オプション	×
PHS電話機収容 (自営標準2版)		×
PHS電話機収容 (自営標準3版)		×
ワイヤレスデータ通信		
デュアルリンクワイヤレス通信		
128kbpsマルチリンクPPP通信		×
スループットBOD/リソースBOD		×
マニュアルBOD		×
同期6.4kbps通信 (非同期/同期PPP変換)		×
非同期57.6kbps通信		×
PIAFS32k対応		
PIAFS64k対応		×
V.42bis圧縮 (PIAFS32kのみ)		
高性能アナログポート	(2ポート)	(1ポート)
アナログ端末ブランチ接続		
疑似キャッチホン		×
疑似三者通話		×
疑似着信転送	(*1)	×

	AtermIW50/D (親機)	AtermRS20 (リモートステーション)
お出かけ設定 *1		×
フレックスホン対応		×
INSボイスワープ対応		×
INSなりわけサービス対応		×
グローバル着信選択		×
ナンバー・ディスプレイ対応		
キャッチホン・ディスプレイ対応		×
CTI機能		×
着信履歴表示		×
着信履歴先発信		×
迷惑電話防止		×
マイプライベート着信		×
疑似識別着信転送		×
電子メール着信通知		×
UUIメール		×
遊遊メール		×
テレホン遊遊メール		×
らくらくウィザード		
らくらくユーティリティ		×
らくらくテレホン設定		
らくらくバージョンアップ		

：対応しています ×：対応していません

AtermIW50/D 仕様一覧

項目		諸元	備考	
接続回線		INSネット64		
交換形態		データポート：回線交換 アナログポート：回線交換		
使用チャンネル		Bチャンネル		
インタフェース形態及びレイヤ1起動種別		P-MP常時またはP-MP呼毎契約	INSネット64接続の場合	
回線インタフェース	コネクタ形状	6ピンモジュラジャック (RJ-11)	DSU内蔵	
	伝送方式	2線、時分割伝送方式		
	伝送路速度	320kbps		
	伝送路符号	AMI符号		
	DSU折り返し機能	あり		
パソコンインタフェース	呼接続機能		ATコマンド	
	RS-232C	機械的条件	D-SUB 9ピンコネクタ	
		電気的条件	V.28	
		回路定義	V.24	
		通信速度 (kbps)	非同期：1.2, 2.4, 4.8, 9.6, 14.4, 19.2, (28.8, 38.4, 57.6) 同期/非同期PPP変換：64 128kマルチリンクPPP：128 PIAFS：32, 64	()はV.110規格外 同期は同期PPP変換 128kはMPのみ
		パソコン速度 (kbps)	非同期：1.2, 2.4, 4.8, 9.6, 14.4, 19.2, 28.8, 38.4, 57.6, 115.2, 230.4	28.8, 38.4, 57.6, 48, 56, 64, 115.2, 230.4はV.28規格外
速度整合方式		ITV-TV.110方式		
アナログ装置インタフェース	コネクタ形状	6ピンモジュラジャック (RJ-11)		
	基本操作	ポート数：2ポート 受信ダイヤル：PBのみ ブランチ接続：可(*1) 供給電圧：約48V(無付加時)	*1 ナンバー・ディスプレイ対応機器のブランチ接続は不可 1つのポートに3台まで接続可 (合計容量： 3 μ F/2k以下)	

項目		諸元	備考
無線端末インタフェース	無線プロトコル	RCR-STD28 3版	
	登録可能子機数	最大6 (同時通話: 最大2)	
	データ通信プロトコル	PIAFS (32kbps/64kbps)	
	圧縮機能	V.4.2bisデータ圧縮機能内蔵	PIAFS32k通信時のみ
停電モード	アルカリ乾電池	待ち受け時間: 約8時間 通話: 約4時間	
	ニカド電池	待ち受け時間: 約1時間 通話: 約30分 2日で満充電	
診断機能		自己診断試験	
ヒューマンインタフェース		バックライト液晶ディスプレイ 状態表示LED x4 でかけるボタン ファンクションボタン 設定スイッチ INS回線リバーススイッチ	
電源		AC100V ±10V、50/60Hz	
使用条件	温度湿度	0~40 10~90%RH	結露しないこと
外形寸法 (W xD xH)		約100mm x110mm x165mm	突起部分を除く
重量		約0.85kg	
消費電力		約9.5W (最大)	

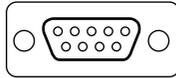
設定スイッチ

Aterm 底面には設定スイッチがあります。「強制ダウンロードモード」を実行するとき、スイッチ番号を「8」に変更します。
設定スイッチを「8」に合わせた後、**(MENU)** **(SELECT)** **(ENTER)** ボタンを同時に押しながら電源を入れ、そのまま5秒以上ボタンを押し続けると実行されます。終了後は、設定スイッチを「0」にもどします。

D-SUB 9 ピンインタフェース

コネクタ形状

9ピンコネクタ(メス型)



パソコンインタフェースの信号線

ピン番号		信号方向		名称	機能
シェル	(FG)			保安用接地	装置のフレームアース
1	CD	パソコン	Aterm	キャリア検出	Atermがパソコンにデータ受信を要求していることを示す ON : パソコンにデータ受信を要求する OFF : パソコンにデータ受信を要求しない
2	RD	パソコン	Aterm	受信データ	Atermからパソコンへ送られるデータ
3	SD	パソコン	Aterm	送信データ	パソコンからAtermへ送られるデータ
4	ER	パソコン	Aterm	データ端末レディ	パソコンの動作準備ができていどうかを示す ON : パソコンがデータ授受の準備ができていことを示す OFF : パソコンがデータ授受の準備ができていことを示す
5	SG			信号用接地	相互接続回路に基準電位を与える
6	DR	パソコン	Aterm	データセットレディ	Atermが動作準備ができていどうかを示す ON : パソコンとデータ授受をおこなう準備ができていことを示す OFF : パソコンとデータ授受をおこなう準備ができていことを示す
7	RS	パソコン	Aterm	送信要求	データ送信許可を要求する ON : データ送信許可を要求する OFF : データ送信許可を要求しない
8	CS	パソコン	Aterm	送信可	データ送信可能かどうかを示す ON : データ送信可能 OFF : データ送信不可
9	CI	パソコン	Aterm	被呼表示	パソコンに着信していることを示す ON : 着信があることを示す OFF : 着信がないことを示す

8 . ホームテレホン / ビジネスホンとの接続

Aterm を使えるのは
このように

Aterm を活用しよう
機能編

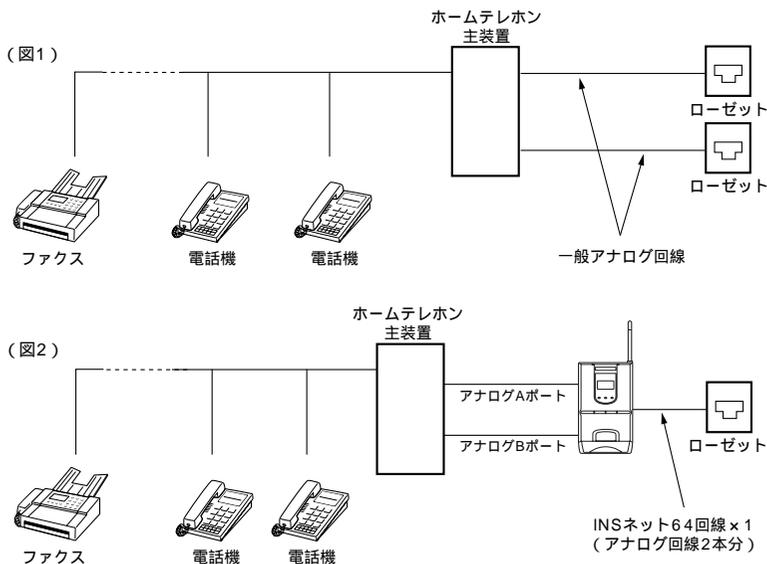
Aterm を活用しよう
設定編

困ったときには

付録

索引

Aterm はホームテレホンやビジネスホン（ボタン電話機）にも接続することができます。図 1 の構成では一般アナログ回線を 2 本使用していますが、1 本の INS ネット 64 回線でアナログ回線 2 本分を収容することができます。



設定

使用していないアナログポートを「使用しない」にします。

優先着信させるポートを指定します。

使用中の機器をダイヤルインで使用している場合は、モデム・ダイヤルインまたはアナログ/ダイヤルインの設定をします。(P.112)

モデム・ダイヤルインまたはアナログ・ダイヤルインを設定すると、ホームテレホンの内線呼び分けることができます。



お知らせ

優先着信ポートを指定しないと、1つの着信があったときに、ホームテレホン/ビジネスホンで2本分の着信ランプが点滅します。

停電モードに設定している場合、停電時はアナログAポートのみ動作します。またAtermに入れた電池が切れた場合はアナログポートは使用できなくなります。

9. 別売オプション

Aterm のオプションとして次の製品を別売しております。

AtermIT 用 Ni-Cd バッテリパック (PC-IT/B01)

停電モード用充電式ニカド電池パックです

S 点ユニット (PC-IT/U03)

ISDN 通信機器を増設したいときに使用します。

高機能 S 点ユニット (PC-IT/UX2)

Aterm に接続した他のターミナルアダプタ間での内線通話を可能にします。

S バス延長ケーブル 10m (PC-IT/K11) \ S バス延長ケーブル 25m (PC-IT/K12)

S 点ユニット、高機能 S 点ユニットを取り付け、別の ISDN 通信機器と接続するときに使用する延長ケーブルです

落雷プロテクタ (PC-IT/SP01)

INS 回線のモジュラージャックと Aterm の間に接続し、落雷から Aterm を保護します。

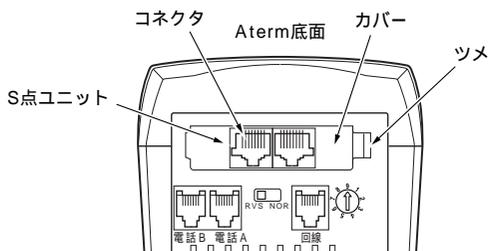
S 点ユニット

Aterm には別売の「S 点ユニット」を取り付けるための S 点ユニットスロットが内蔵されています。

S 点ユニットの取り付けかた、使用方法については S 点ユニットに添付の「取扱説明書」を参照してください。

S 点ユニットカバーの取り外しかた

S 点ユニットカバーのツメを押し下げながら、カバーを取り外します。



S 点ユニットカバーを取り外した際に、異物をスロット内部に入れないでください。故障の原因となります。

はんだ面にふれないようにしてください。けがをするおそれがあります。

10 . INS ネット 64 のお申し込みについて

最寄りの NTT 東日本または NTT 西日本の窓口で、INS ネット 64 の加入手続きをしてください。手続きの詳細につきましては、NTT 東日本または NTT 西日本の窓口にご相談ください。

INS ネット 64 お申込票の記入のしかた

- ① お申込年月日
お申込票を提出する日を記入します。
- ② ご記入者
お申込者のお名前を記入します。
- ③ ご利用開始希望日
工事を希望される年月日を記入します。
- ④ お申込回線数
お申し込みになる回線数を記入します。
- ⑤ お申込者
住民票または登記簿上のお名前を記入します。
- ⑥ INS ネット 64 をご利用になる場所
INS ネット 64 を利用する場所を記入します。
- ⑦ お申込者ご住所
住民票または登記簿上の住所を記入します。
- ⑧ ご連絡先
平日の昼間にご連絡のとれる電話番号を記入します。
- ⑨ 工事立会者
お申込内容をご存じで、工事完了の確認ができる方の名前を記入します。
- ⑩ 毎月の請求書の送付先
送付される請求書の送付先を選択または記入します。
- ⑪ 電話帳への掲載方法
電話帳へ掲載するかしないかを選択し、掲載する場合は掲載名を記入します。「掲載する」を選択すると、記入した名前で「104」の番号案内もおこなわれます。
- ⑫ 電話帳の配達
電話帳の配達を希望するか希望しないかを選択します。

Aterm をご利用いただく上でお申し込みが必要な項目

項目		選択・記入内容	備考
必須項目	インターフェイス形態及びレイヤ1起動種別	P-MP常時 (推奨)	
	発信者番号通知サービス	通常通知(通知ごと非通知) (推奨)	Atermの初期状態は「INSネット64申込内容に従う」に設定されているため、発信者番号を通知します。通知したくない場合は、「IW50らくらくユーティリティ」またはATコマンドで「通知しない」に設定します。
	ユーザ間情報通知サービス	着信許可	チェックしない場合、電子メール着信通知、UIメール、ユーザ間情報通知の機能が利用できません。
付加項目	無料	通信中着信通知サービス	チェックしない場合、データ通信のときにリソースBODの着信、電子メール着信通知、UIメールの着信ができません。
	有料	i・ナンバー ダイヤルインサービス	i・ナンバー 電話番号を2つ使いたいときに契約します。 ダイヤルインサービス Atermのグローバル着信機能を利用して、アナログポートを電話番号で呼び分けるときに契約します。グローバル着信の「利用」を選択します。
通信機器	通信機器の名称	DSU折り返し機能「有」	DSU欄に「PC-IW50/D1A」と記入します。
	メーカー名	他社	
	数量	(台数)	
	機器工事	お客さま	

11. Aterm 設定の控え

Aterm に設定した内容を記入の上、保管しておいてください。保守の際の資料となります。

設定記入シート

(* : 初期値)

商品名 (LOT No.)	
-----------------	--

ダイヤルイン電話番号テーブル				
アナログポート/データポートのグローバル着信 [05]	*	契約者回線番号でグローバル着信する 契約者回線番号でグローバル着信しない		
		着信するポート		発信者番号通知の通知番号
			無線	無線
		A B デ	A B C D E F	A B デ A B C D E F
契約者回線番号 []				
ダイヤルイン1番 []				
ダイヤルイン2番 []				
ダイヤルイン3番 []				
ダイヤルイン4番 []				
ダイヤルイン5番 []				
ダイヤルイン6番 []				
ダイヤルイン7番 []				
		(各ポート複数選択可)		(各ポート択一)
		音声通信のグローバル着信時の呼び出し		
	*	全端未一斉	Aポート	Bポート
		Dポート	Eポート	Fポート
				呼び出さない
		データ通信のグローバル着信時の呼び出し		
		Aポート	Bポート	Cポート
		Eポート	Fポート	* 呼び出さない
無線ポートのグローバル着信 [21]				

i・ナンバー電話番号テーブル				
		着信するポート		発信者番号通知の通知番号
			無線	無線
		A B デ	A B C D E F 一斉	A B デ A B C D E F
i・ナンバー情報1 []				
i・ナンバー情報2 []				
		(各ポート複数選択可)		(各ポート択一)

アナログAポート [1]			
発信者番号通知	[09]	行わない	行う * INSネット64の申込通り
接続機器	[01]	* 電話	FAX/モデム 接続しない(使用しない)
キャッチホン	[02]	* 使用しない	INSキャッチホン 疑似キャッチホン
受話音量	[12]	小	* 中 大
情報通知サービス	[10]	* 使用しない	ナンバー・ディスプレイを使用する モデム・ダイヤルラインを使用する アナログ・ダイヤルラインを使用する ナンバー・ディスプレイ+モデム・ダイヤルラインを使用する キャッチホン・ディスプレイを使用する
停電時の着信	[22]	* 着信する	着信しない
停電時のリング	[22]	* リンガが鳴る	ブザーが鳴る
サブアドレス	[93]	[]	
サブアドレスなし着信	[06]	* 着信する	着信しない
ナンバー・ディスプレイ/ モデム・ダイヤルライン時の サブアドレスの通知	[10]	通知する	* 通知しない
ダイヤル桁間タイマ	[07]	* 5秒	9秒 11秒 13秒
フッキング検出タイマ	[08]	短い	* 普通 長い
HLC (高位レイヤ整合性)	[04]	* HLCを設定しない	HLCを設定し、着信判定する HLCを設定するが着信判定しない
識別着信	[03]	* 行わない	行う
リバースパルス	[13]	* 送出しない	送出する
番号の送出方法		電話番号をそのまま送出 *1	内線指定番号に変換して送出 *2
契約者回線番号			内線指定番号(最大4桁)
ダイヤルイン1番			[]
ダイヤルイン2番			[]
ダイヤルイン3番			[]
ダイヤルイン4番			[]
ダイヤルイン5番			[]
ダイヤルイン6番			[]
ダイヤルイン7番			[]
		*1 モデム・ダイヤルラインで使用	*2 アナログ・ダイヤルラインで使用

アナログBポート [2]	
発信者番号通知 [09]	行わない 行う * INSネット64の申込通り
接続機器 [01]	* 電話 FAX/モデム 接続しない(使用しない)
キャッチホン [02]	* 使用しない INSキャッチホン 疑似キャッチホン
受話音量 [12]	小 * 中 大
情報通知サービス [10]	* 使用しない ナンバー・ディスプレイを使用する モデム・ダイヤルインを使用する アナログ・ダイヤルインを使用する ナンバー・ディスプレイ+モデム・ダイヤルインを使用する キャッチホン・ディスプレイを使用する
サブアドレス [93]	[]
サブアドレスなし着信 [06]	* 着信する 着信しない
ナンバー・ディスプレイ/ モデム・ダイヤルイン時 のサブアドレスの通知 [10]	通知する * 通知しない
ダイヤル桁間タイマ [07]	* 5秒 9秒 11秒 13秒
フッキング検出タイマ [08]	短い * 普通 長い
HLC (高位レイヤ整合性) [04]	* HLCを設定しない HLCを設定し、着信判定する HLCを設定するが着信判定しない
識別着信 [03]	* 行わない 行う
リバースパルス [13]	* 送出不しい 送出する
番号の送出方法	電話番号をそのまま送出 *1 内線指定番号に変換して送出 *2 内線指定番号(最大4桁)
契約者回線番号	[]
ダイヤルイン1番	[]
ダイヤルイン2番	[]
ダイヤルイン3番	[]
ダイヤルイン4番	[]
ダイヤルイン5番	[]
ダイヤルイン6番	[]
ダイヤルイン7番	[]
	*1 モデム・ダイヤルインで使用 *2 アナログ・ダイヤルインで使用

アナログポート共通登録 [4] [5]	
お出かけ設定 [73]	* おやすみモード 電話着信転送モード ボイスワープ転送モード フラッシュモード
着信転送設定 [27]	着信転送 電話番号着信転送 * 疑似着信転送
着信転送時の トーカーサービス [27]	なし 転送トーカーのみあり * 両トーカーともあり
ボイスワープ設定 転送開始モード [74]	* 無条件に転送 無応答時に転送 話し中時に転送 無応答/話し中時に転送
優先着信ポート [23]	* 指定しない Aポート Bポート

着信転送先	
着信転送元(1)	の転送先(1) [40] [30]
着信転送元(2)	の転送先(2) [41] [31]
着信転送元(3)	の転送先(3) [42] [32]

アナログポート・無線ポート共通設定 [4][0]				
通話中転送	[26]	*	使用しない	使用する
三者通話	[25]	*	使用しない	三者通話 疑似三者通話
内線通話・内線転送	[24]		しない *	する
LCDモード			常に消灯 常に点灯 *	自動 自動 + Bチャンネル使用中は常に点灯
LCD表示	[71]		番号表示しない *	番号表示する
「#」で発信	[75]		使用しない *	使用する

無線Aポート [1]				
発信者番号通知	[09]		行わない 行う *	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	*	リモートステーション/PHS (音声) で利用 リモートステーション (FAX/モデム) で利用 音声、FAX/モデム通信をしない	
キャッチホン	[02]	*	使用しない	INSキャッチホン 疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]		[]
ダイヤル桁間タイマ	[07]	*	5秒 9秒	11秒 13秒
データ発信モード			PIAFSスルーモード 非同期 (57.6k) *	プロトコル変換モード (同期64k)
データ着信モード	*	PIAFS 32k	PIAFS 64k	デュアルリンクワイヤレスモード

無線Bポート [2]				
発信者番号通知	[09]		行わない 行う *	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	*	リモートステーション/PHS (音声) で利用 リモートステーション (FAX/モデム) で利用 音声、FAX/モデム通信をしない	
キャッチホン	[02]	*	使用しない	INSキャッチホン 疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]		[]
ダイヤル桁間タイマ	[07]	*	5秒 9秒	11秒 13秒
データ発信モード			PIAFSスルーモード 非同期 (57.6k) *	プロトコル変換モード (同期64k)
データ着信モード	*	PIAFS 32k	PIAFS 64k	デュアルリンクワイヤレスモード

無線Cポート [3]				
発信者番号通知	[09]		行わない 行う *	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	*	リモートステーション/PHS (音声) で利用 リモートステーション (FAX/モデム) で利用 音声、FAX/モデム通信をしない	
キャッチホン	[02]	*	使用しない	INSキャッチホン 疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]		[]
ダイヤル桁間タイマ	[07]	*	5秒 9秒	11秒 13秒
データ発信モード			PIAFSスルーモード 非同期 (57.6k) *	プロトコル変換モード (同期64k)
データ着信モード	*	PIAFS 32k	PIAFS 64k	デュアルリンクワイヤレスモード

無線Dポート		[4]			
発信者番号通知	[09]	行わない	行う	*	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	* リモートステーション/PHS(音声)で利用 リモートステーション(FAX/モデム)で利用 音声、FAX/モデム通信をしない			
キャッチホン	[02]	* 使用しない	INSキャッチホン		疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]	[]			
ダイヤル桁間タイマ	[07]	* 5秒	9秒	11秒	13秒
データ発信モード		PIAFSスルーモード 非同期(57.6k)		*	プロトコル変換モード(同期64k)
データ着信モード		* PIAFS 32k	PIAFS 64k		デュアルリンクワイヤレスモード

無線Eポート		[5]			
発信者番号通知	[09]	行わない	行う	*	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	* リモートステーション/PHS(音声)で利用 リモートステーション(FAX/モデム)で利用 音声、FAX/モデム通信をしない			
キャッチホン	[02]	* 使用しない	INSキャッチホン		疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]	[]			
ダイヤル桁間タイマ	[07]	* 5秒	9秒	11秒	13秒
データ発信モード		PIAFSスルーモード 非同期(57.6k)		*	プロトコル変換モード(同期64k)
データ着信モード		* PIAFS 32k	PIAFS 64k		デュアルリンクワイヤレスモード

無線Fポート		[6]			
発信者番号通知	[09]	行わない	行う	*	INSネット64の申込通り
登録機器	[01]	* リモートステーション/PHS(音声)で利用 リモートステーション(FAX/モデム)で利用 音声、FAX/モデム通信をしない			
キャッチホン	[02]	* 使用しない	INSキャッチホン		疑似キャッチホン
サブアドレス	[93]	[]			
ダイヤル桁間タイマ	[07]	* 5秒	9秒	11秒	13秒
データ発信モード		PIAFSスルーモード 非同期(57.6k)		*	プロトコル変換モード(同期64k)
データ着信モード		* PIAFS 32k	PIAFS 64k		デュアルリンクワイヤレスモード

無線ポート共通設定	
外線データ通信の優先着信ポート	* データポート 無線ポート

データポート			
発信者番号通知	*	INSネット64申込内容に従う	通知する 通知しない
サブアドレス		[]
サブアドレスなし着信	*	着信する	着信しない
識別着信		識別着信する	* 識別着信しない
高位レイヤ整合性 (HLC)	*	設定しない	設定する
無通信監視タイマ		監視しない	* 監視する []分
強制切断タイマ		切断しない	* 切断する []時間
ER信号	*	パソコンのERを見る	常時ER-ONとみなす
		通信中のみパソコンのERを見る	
CD信号		ER-ON時には常にCD-ON	* 通信中は常にCD-ON
DR信号	*	ER-ON時には常にDR-ON	通信中は常にDR-ON
UIメール着信時のランプの点滅		点滅させない	* 点滅させる
電子メール着信通知時のランプの点滅		点滅させない	* 点滅させる
応答平均化	*	応答平均化しない	応答平均化する []
スティルスコールバック	*	コールバックしない	コールバックする
サブアドレス・セパレータ	*	/	# *
PIAFS通信時のV.42bisデータ圧縮	*	行わない	行う

電話帳 (識別・短縮番号) 登録 [50 ~ 59]		
相手の名前	アドレス	サブアドレス
0		
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		

データ通信設定一覧

	発信パス	通信速度 (bps)	IW50側設定		リモートステーション側設定	PHS側設定	備考		
			らくらくコネクティビティ無線A～Fポート設定	ATコマンド設定					
内線データ通信	RS IW50	64k	デュアルリンクワイヤレスモード	AT\$Px11=2	(AT\$NP1=1)				
		32k (PIAFS)	PIAFS 32k	AT\$Px11=0	(AT\$NP1=0)				
	PHS IW50	32k (PIAFS)	PIAFS 32k	AT\$Px11=0					
		64k (PIAFS)	PIAFS 64k	AT\$Px11=1					
外線データ通信	PHS PHS	32k (PIAFS)							
		32k (PIAFS)		AT\$N1=2N15=0		AT\$N1=2N15=0	AT\$N1=2N15=0	AT\$N1=2N15=0	
	IW50 外線	64k (PIAFS)			AT\$N1=2N15=1			AT\$N1=2N15=1	AT\$N1=2N15=1
		57.6k (非同期)			AT\$N1=0			AT\$N1=0	AT\$N1=0
外線データ通信	RS 外線	64k (同期)			AT\$N1=1			AT\$N1=1	AT\$N1=1
		128k (同期)			AT\$N1=1			AT\$N1=1	AT\$N1=1
	PHS 外線	32k (PIAFS)	PIAFSスループモード		(AT\$Px10=0)	(AT\$NP1=0)			
		64k (PIAFS)	PIAFSスループモード		(AT\$Px10=0)	(AT\$NP1=1)			
PHS 外線	PHS 外線	64k (同期)	プロトコル変換モード (同期64k)		(AT\$Px10=7)				
		32k (PIAFS)	PIAFSスループモード						
		64k (PIAFS)	PIAFSスループモード						
		64k (同期)	プロトコル変換モード (同期64k)		(AT\$Px10=7)				V.4.2bis ON

IW50 らくらくコネクティビティでは次の設定をします。
 デュアルリンクワイヤレスモード/PIAFS 32k/PIAFS 64k: 「無線ポートの高度な設定」の「データ着信モード」を設定
 PIAFSスループモード/プロトコル変換モード: 「無線ポートの高度な設定」の「データ発信モード」を設定
 ATコマンド設定の()は、IW50 らくらくコネクティビティで自動設定されるコマンドです。
 ATコマンドの「AT\$Px10」「AT\$Px11」の「x」は、無線A～Fポートの「A」～「F」に置き換えて設定してください。

12. 用語集

ATerm を使った用語

ATerm を活用した機能編

ATerm を活用した設定編

困ったときには

付録

索引

数字、A ~ Z

128kbps **マルチリンク PPP**
高速データ通信をするためのプロトコル。複数のBチャンネルを同時に使って通信速度を向上させる。

ACCM

Async Control Character Mapの略。非同期PPP通信で使用する制御キャラクタを2バイトのキャラクタに変換するかどうかを決める機能。

AT コマンド

米ヘイズ・コンピュータ・プロダクツ社によって開発されたモデムを制御するためのコマンド(命令)。このコマンドと互換性のあるモデムは、通信ソフトを備えたパソコンと接続することによって、パソコンから設定内容を制御することができる。

BOD

Bandwidth on Demandの略。通信データ量に合わせて、同時に利用するチャンネル数を自動的に切り替える機能。電話を利用するときには通信に利用するチャンネル数を減らして通信速度を落とすリソースBOD、通信データ量が多いときは2つのBチャンネルを合わせて通信速度を上げるスループットBODがある。

bps

Bit per secondの略。1秒間に送信できるビット数を表す通信速度の単位。

B チャンネル

ISDN回線で音声やデジタル信号を送受信するためのチャンネル。INSネット64は2本のBチャンネルが提供されている。

COM (コム) ポート

Communication portの略。RS-232Cとも呼ばれる。モデムなどを接続し通信をおこなうためのシリアルインターフェース。

CS 信号

Clear to Sendの略で、送信可能なRS-232Cの信号線のひとつ。CTSともいう。モデムがパソコンからのデータ(あるいはコマンド)を受け取れることを表わす。

DNS

Domain name systemの略。IPアドレスを検索し取得するためのシステム。

DR 信号

Data set Readyの略。RS-232Cの信号線のひとつで、DSRともいう。モデムが通信している状態であることを表わす。

DSU

Digital Service Unitの略。INSネット64の1回線につき、必ず1台を設置する回線接続装置で、デジタル通信時の同期や速度変換を行う。ターミナルアダプタに内蔵する製品も多い。

D チャンネル

ISDN回線でBチャンネルの制御やパケット通信に利用されているチャンネル。INSネット64では1つのDチャンネルが提供されている。

ER 信号

Equipment Readyの略で、データ端末レディともいう。RS-232Cの信号線のひとつで、パソコンがモデムに対し、通信している状態であることを知らせる。

G3 ファクス

アナログ回線を使うファクスのこと。

HLC

High Layer Coordinationの略。高位レイヤ整合性ともいう。接続するパソコンやアナログ装置の種別をあらかじめコード設定して、一致する相手のみと通信をおこなう機能のこと。相手がINSネット64に加入している場合にだけ利用できる。

ID 登録

無線機能を備えたワイヤレス子機(PHS やリモートステーション)を親機に増設登録すること。

INS

Information Network Systemの略。高度情報通信システムと呼ばれ、NTT 東日本、NTT 西日本が提供しているISDNサービスのこと。INSネット64とINSネット1500がある。

INS ネット 64

64kビット/秒の同期転送を行えるBチャンネル2本とDチャンネル1本を束ねて利用する家庭向けのサービス。

INS ネット 1500

1.5Mビット/秒の回線を23本のBチャンネルに分割して通信することが可能な企業向けのサービス。

IP アドレス

インターネットに接続できるアドレスの総称。電子メールなどの受信地を特定するためのインターネット上の番地。

ISDN

Integrated Services Digital Networkの略。統合サービスデジタル網。電話機やファクス、パソコンなどを統合的に扱うことができるデジタル通信サービスの国際標準規格。

LCR

Least Cost Routingの略。最低料金回線選択機能という意味を持つ。第二電電(DDI)、日本テレコムが電話機やファクスに搭載している機能。最近ではACR機能(Automatic Carrier Routing/自動電話会社選択機能)とも呼ばれている。

OCN

Open Computer Networkの略。NTT東日本、NTT西日本が提供するインターネット接続やLAN間接続などのコンピュータ通信に適したネットワーク。アナログ網やISDN、携帯電話、PHSを経由してインターネットに接続する「ダイヤルアップ接続型」と、専用のアクセスラインを用いて接続する「常時接続型」がある。

PHS

Personal handyphone systemの略。デジタル式のコードレス電話。1つの子機から複数の無線基地(親機)にアクセスできる。

PIAFS

PHS Internet Access Forum Standardの略。高品質のデータ通信方式の開発のために標準化された規格。

RAS

Remote Access Serviceの略。Windows NTで使われているシステムサービスで、自宅や出張先などから会社のサーバにアクセスして、メールを読むことができる。

RS-232C

COMポート

SD信号

送信データ。RS-232Cの信号線のひとつでモデムがパソコンから受けるデータ通信。

RD信号

受信データ。RS-232Cの信号線のひとつでパソコンがモデムから受けるデータ通信。

S/T点端子

DSU内蔵のターミナルアダプタに他のターミナルアダプタを接続するための端子。

TCP/IP

大学や研究機関などのネットワーク用に開発された通信プロトコル。TCPとIPの2つのプロトコルを組み合わせただけで、インターネット上の通信のベースになっている。

URL

Uniform Resource Locatorの略。インターネット上に置かれているホームページなどの位置を特定するための記述方法。一般的にホームページ(Web)アドレスと呼ばれているものは、その一例。

USB

Universal Serial Busの略。パソコン用のシリアルインタフェース。マウスやキーボード、モデム、ターミナルアダプタなどを接続できる。

UUIメール

インターネットプロバイダやパソコン通信サービスを經由せずに、Aterm間で直接メールの送受信をするメールサービスのこと。INSネット64の「ユーザ間情報通知サービス(UUI)」を利用する。

V.42bis データ圧縮

通信関係の規格を認定するITU(International Telecommunication Union/国際電気通信連合)に登録されている圧縮方法。

あ行

アクセスポイント

プロバイダまたはパソコン通信サービス業者に接続するための場所または電話番号。

アナログポート

アナログ式の電話・FAXなど接続するためのポート。

オンラインサインアップ

パソコンからモデムやターミナルアダプタなどを使い、通信でプロバイダやパソコン通信サービス業者の契約を結ぶこと。

か行

疑似機能

INSネット64で提供されているサービスと同等の機能をINSネット64の契約なしに利用できるAtermの機能。ただし、若干の利用制限がある。

キャッチホン・ディスプレイ

通話中に新たに着信した相手の電話番号を受信者側の電話機に表示するサービス。

NTT東日本・NTT西日本とのINSナンバー・ディスプレイの契約とこの機能に対応した電話機が必要。

グローバル着信

INS ネット 64 で提供されている呼び出し方法のひとつ。着信する番号を通知せずにその回線上に接続されたすべての機器を呼び出すことができる。

契約者回線番号

回線に与えられた電話番号のこと。1 つの回線につき、1 つの契約者回線番号が与えられる。一般の電話でいう「電話番号」にあたるもの。

さ行

サブアドレス

発信側と受信側の両者が INS ネット 64 を利用しているときに使える機能。通常の電話番号にサブアドレスという番号を加えて電話をかけ、着信側で設定したサブアドレスと一致したときだけ着信させることができる。

三者通話

INS ネット 64 で提供されているフレックスホンに含まれるサービスのひとつ。外線と通話中に第三者を呼び出し、三者間で通話ができる。三者が同時に通話するミキシングモードと二者で通話する切替モードの 2 つのモードがある。

識別着信

ターミナルアダプタにあらかじめ登録した電話番号からの着信のみを受け付ける機能。

識別リングング

特定の相手からの電話に対して電話機の呼出音を変える機能。

シリアルポート

COM ポート

スティルスコールバック

Aterm を使ったクライアントとサーバのネットワークで、クライアント側から発信をおこなうと自動的にサーバ側 Aterm がクライアント側にかけなおす機能。

増設登録

ID 登録

た行

ダイヤルアップルータ

INS ネット 64 などの公衆回線で LAN 間接続を行うためのルータ。ネットワークアドレスと一緒にプロバイダの電話番号を登録しておくことで、ブラウザを立ち上げると自動的に電話をかけ、プロバイダと接続する。

ダイヤルイン

INS ネット 64 で提供されているサービス。契約者回線番号の他に、ダイヤルイン追加番号(電話番号)を取得できるので、複数の機器に個別の電話番号を割り当てたいときに利用する。

着信転送

INS ネット 64 で提供されているフレックスホンに含まれるサービスのひとつ。着信があったとき、その呼び出しに対応せず、他の電話番号に転送することができる。

データポート

COM ポート

デュアルリンクワイヤレス通信

NEC 独自の通信方式。Aterm RS20(リモートステーション)のデータポートに接続されたパソコンから無線 2 チャネルを使った最大 64 kbps の高速データ通信が可能になる。Aterm IW50/D と Aterm RS20(リモートステーション)のデータポートとの間の内線データ通信およびプロトコル変換モード(非同期/同期 PPP 変換)によって、インターネットのアクセスポイントとも簡単に接続できる。

転送トーク

着信転送や INS ボイスワープ利用時に、発信者に対して転送する旨をアナウンスすること。

同期

データ伝送において、送信側と受信側の間でタイミングを合わせること。

な行

ナンバー・ディスプレイ

発信者の電話番号を受信者側の電話機に表示するサービス。受信者は通話前に発信者を知ることができる。NTT 東日本・NTT 西日本との契約が必要。

発信者番号通知

ナンバー・ディスプレイ

は行

ファームウェア

Aterm に内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれるソフトウェアのこと。Aterm に新規機能を追加する新しいバージョンのファームウェアを書き込むと新規機能を使用できるようになる。

フッキング

受話器を置くところにあるフックスイッチを約1秒押すこと。通話の切り替えなどに使う。

ブランチ接続

電話機やファクスを分岐コネクタを使って、数珠つなぎにすること。ターミナルアダプタでは1つのアナログポートに3台(合計容量3 μ F/2k Ω 以内)までブランチ接続ができる。

ブリンストール

OS(オペレーティングシステム)やアプリケーションソフトがパソコンのハードディスクにあらかじめ組み込んであること。

フレックスホン

INS ネット 64 で提供される付加サービス。INSキャッチホン、通信中転送、三者通話、着信転送の4つの機能から構成されている。

プロトコル

コンピュータでデータ通信を行うために必要な規約の総称。

プロトコル変換モード

PHS データ端末やリモートステーションからの32kbpsや64kbpsPIAFSデータをAtermでいったん終端して、通信相手のモードに合わせて、非同期データまたは同期データに変換するモードのこと。通常のターミナルアダプタやPIAFSでは対応していないアクセスポイントと通信ができる。

プロバイダ

インターネットへの接続サービスをする会社の総称。正式にはネットワーク・サービス・プロバイダ。ユーザはダイヤルアップまたは専用回線でプロバイダに接続し、インターネットへ接続する。

や行

ユーザID

ユーザを識別するための文字や数字などの組み合わせの総称で、ネットワーク上の名前のようなもの。ユーザIDを他人に利用されないためにパスワードと併わせて利用される。

ら行

リバースパルス

先方が電話を切った後に聞こえるトーン信号を検知して電話機に終話を認識させるために送出する信号のこと。

リモートステーション

Atermの子機として増設されるターミナルアダプタのことで、PHSと合わせて最大6台まで増設登録できる。この機能を使えばターミナルアダプタ同士でワイヤレス通信が可能になるので、離れた場所の電話機やパソコンを無線で使うことができる。

わ行

ワークステーション

パソコンの上位に位置するコンピュータシステムで、多機能、統括性に優れている。ネットワーク機能も完備しており、ホストシステムとの通信やマルチウィンドウなどといった機能を持ち、UNIXなどのOSの下で情報処理を行う。

索引

記号・数字

#発信	46, 177, 191, 209
128kbps マルチリンク PPP	143, 144, 179, 341
25 ビン変換コネクタ	27, 40
64kPPP	179
64k同期	21

A

A/ROSE	69, 231
ACCM	142, 179, 341
ADPCM	279, 341
AtermIW ASYNC115	257, 265
AtermIW MP128	257, 265
AtermIW SYNC115	257, 265
AtermIW50 シリーズユーティリティ集	27, 50, 153, 262
AtermRS20	21, 22, 23, 138, 141, 319
AtermStation	63, 73, 240, 259, 269
AT コマンド	143, 147, 229, 281, 341
AT コマンド一覧	284

B

B1、B2	29, 233
BBLSI	279
BIGLOBE	26, 60, 151, 216, 217
BIGLOBE ID	159, 167
BOD	144, 145, 179, 199, 341
BOX 番号	239
B チャンネル	28, 341

C

CCL ファイル	69
CD-ROM	27, 50, 234
CD 信号	179, 200
COM ポート	40, 227, 341
CS 信号	341
CTI	175, 182

D

D-SUB9 ピンインタフェース	326
------------------	-----

DNS	61, 69, 230, 258, 268
DOS/V 機	40
DR 信号	179, 200, 341
D チャンネル	341

E

ENTER ボタン	29
ER 信号	29, 179, 200, 284, 341
Eudora	26

F

FAX 情報サービス	239
FLASH	279

G

G3 ファクス	33, 341
---------	---------

H

HDLC	279
HLC	134, 175, 178, 335, 341
HLC 設定	134, 195, 206

I

i・ナンバー	26, 65, 75, 124, 183, 209
i・ナンバー情報	124, 210
ID 登録	25, 167, 341
INS	341
INS 回線ケーブル	27, 39
INS 回線コネクタ	31
INS 回線リバーススイッチ	31, 43
INS キャッチホン	86, 104, 128, 174, 181, 210,
INS ナンバー・ディスプレイ	129, 313
INS ネット 1500	341
INS ネット 64	24, 39, 86, 92, 151, 331, 341
INS ネット 64 のお申し込み	331
INS ネット 64 の接続	39
INS ネット 64 付加サービス	
i・ナンバー	26, 65, 75, 87, 112, 113, 124
INS なりわけサービス	87, 108, 109, 117, 129
INS ナンバー・ディスプレイ	87, 107, 108, 110, 111, 129

INS ナンバー・リクエスト	87, 129
INS ボイスワープ	87, 121, 127
INS ボイスワープ・セレクト	87, 127
キャッチホン	87, 104, 128
キャッチホン・ディスプレイ	130
三者通話	86, 87, 96
ダイヤルインサービス	26, 87, 112, 113, 125
着信転送	87, 128
通信中着信通知サービス	144
通信中転送	87, 116
発信者番号通知	86
フレックスホン	87, 115, 116, 128
INS なりわけ選択キャッチホン	86, 109
INT	279
Internet Explorer	26, 63, 73, 269
IP アドレス	268, 341
IP ヘッダー圧縮	258, 268
ISDN	342
IW50 ユーティリティ集	50, 54, 65, 249
IW50 らくらくウィザード	50
インストール	54
IW50 らくらくバージョンアップ	50, 228
IW50 らくらくユーティリティ	50, 65, 173, 190, 260
IW50 らくらくユーティリティが 使えない	227

L

LCD 表示	177, 337
LCR	219, 342
LINE	279

M

Mac OS	69
Macintosh	40, 53, 65, 158, 190
Mac 変換ケーブル	27, 40
MENU ボタン	29
Microsoft ネットワーク共有 サービス	141
Microsoft ネットワーク クライアント	141, 254
Microsoft ネットワーク MP・BOD 機能	179
MS-IME	237
MSG (Message) ランプ	29, 161, 216, 217, 280

N

NEC サービスステーション	245, 280
NEC パーソナルコミュニケーション インフォメーションセンター	240
NetBEUI	141
Netscape Navigator	26, 63, 73, 259
NTT 東日本・NTT 西日本	43, 248

O

OCN	342
Open Transport PPP	69, 148
OPTION	279
Outlook Express	26

P

PB	33
PC-9800 シリーズ	40
PC98-NX	40
PC クリーンスポット	243
Performa シリーズ	69
PHS	21, 22, 23, 25, 48, 88, 342
PHS カード	21, 23
PHS が使えない	221
PHS 対応機種	25, 239
PHS でインターネットに接続	232, 260
PHS データ通信	139
PHS で電話をかける / 受ける	48, 89
PHS の登録	25, 88
PHS モード	25, 88
PHS ランプ	29, 223
PIAFS	342
PIAFS 32k/64k 通信	21, 136, 137, 139, 182, 257
PIAFS アクセスポイント	21, 257, 261, 265
PIAFS スルーモード	136, 137, 261
PIAFS データカード	260
PIAFS データ通信	136, 137
PIAFS ネット	232
PIAFS モード	182, 197
Power Macintosh G3	69
POWER ランプ	29, 216, 228, 234
PPP	71, 141, 233
PPP モジュール	233
PTE アクセスポイント	232

R

RAM	279
RAS	141, 342
RAS 対応デバイス	265
RDY	29, 233
RD 信号	342
RS-232C ケーブル	27, 40

S

S/T 点端子	342
SD/RD	342
SD/RD ランプ	29, 217
SD 信号	342
SELECT ボタン	29

S 点ユニット	31, 330
S 点ユニットカバー	31, 330
S 点ユニットスロット	31
S バス延長ケーブル	330
S レジスタ	282, 306

T

TCP/IP	69, 254, 267, 342
TCP/IP プロトコル	265

U

USB	342
UUI メール	150, 151, 153, 170, 180, 197, 216, 342
UUI メール EX	50, 153, 154, 158, 216
UUI メール変換サービス	150

V

V.42bis データ圧縮	180, 199, 261, 342
---------------	--------------------

W

Windows95	52, 153, 173, 249
Windows98	52, 153, 173, 249
WindowsNT4.0	52, 153, 173, 262

X

X25	268
-----	-----

あ

アース	41
アース線接続端子	30, 41
相手に知らせる番号を指定する	94
アクセスポイント	61, 70, 250, 265
新しい電話帳のエントリウィザード	266
圧縮	320, 322
アドレス帳	156, 160
アナログ・ダイヤルイン	113
アナログ/無線ポート間内線通話	177
アナログ A/B ポート	31
アナログ通信機器	33, 38
アナログポート	38, 45, 191
アナログポートの設定	45, 174, 191, 205
アフターサービス	239
アンインストール	188

アンインストール	188
安全に正しくお使いいただくために	2
アンテナ	28, 39
アンテナマーク	48, 221

い

異常があったとき	280
インストール	54, 65
インストールサービス	241
インターネットがうまくいかない	229, 249
インターネット・エクスプローラ	26, 63, 73, 259
インターネットあんしんバック	241
インターネットサービス	241
インターネット設定	59, 69
インフォメーションサービス	240

う

ウィルスチェックサービス	242
受ける電話番号を特定する	107

え

液晶ディスプレイ	28, 212, 233, 310
絵文字	29, 310

お

応答平均化	148, 180, 199
お出かけ設定	118, 176, 194
おやすみモード	118
電話着信転送モード	118, 120
フラッシュモード	118, 122
ボイスワープ転送モード	118, 121
お出かけ設定ができない	225
お出かけモード	209
お問い合わせ先	239
オフィスモード	25
オプション	330
おやすみモード	118
音声通信のグローバル着信時の呼び出し	184
オンラインサインアップ	26, 60

か

海外での使用	235
回線極性	217
カイセンショウガイ	43, 217, 218
回線の状態	202
外線データ通信の優先着信ポート	182
回線の確認	24
回線用コンセント	24
解凍	320, 322
各部の名前	28
かけてきた相手の電話番号をみる	101

ガス自動検針器	217
カレンダー	44
簡易設定	190

き

疑似キャッチホン	104
疑似機能	342
疑似三者通話	96, 98
疑似識別着信	184
疑似識別着信転送	117
疑似選択キャッチホン	109
疑似着信転送	115, 120
疑似なりわけ	184
機種名表示	44
機能一覧	324
基本サービス	86
キャッチホン	109, 174, 181, 206
キャッチホン・ディスプレイ	130
強制切断タイマ	149, 179, 199
強制ダウンロード	31, 228
共通アドレス登録	66
共通設定	176, 191
切替モード	96

く

クライアント側	146
グローバル着信	83, 125, 183, 343

け

契約者回線番号	57, 67, 343
契約電話番号	177
現地調整	244, 248

こ

高位レイヤ整合性	134, 175, 178, 195, 339
高機能 S 点ユニット	330
工場出荷状態	235
高度な設定	178, 182
子機	25
コマンド	282
ご利用の条件	151
コンセント	39

さ

三人で同時に話す	96
サーバ側	147
サービスコンセント	41, 216
サービスステーション	245
再発信	63, 73, 259

サブアドレス	91, 101, 132, 133, 175, 178, 182, 195, 206, 343
サブアドレス・セバレータ	101, 180
サブアドレス無し着信	195, 199, 206
三者通話	86, 87, 96, 98, 128, 177, 191, 208, 343
算出時間	145, 179

し

しきい値	145, 179
識別着信	86, 107, 117, 175, 178, 182, 194, 197, 198, 206, 336
識別着信転送	87, 117
識別リングング	86, 108, 175, 195, 206, 210, 343
自己診断	279
自作メッセージの登録	167
自動切断タイマ	179
自動着信	226
自分の電話番号を相手に知らせる	92
修理	244
受話音量	68, 99, 174, 206
受話音量調整	99
仕様一覧	326
使用するツール	152
状態表示ランプ	29
情報通知サービス	174, 195, 207
情報を見る	
Aterm のディスプレイで見る	214
パソコンで見る	186, 202
累積料金	186, 202, 214, 234, 275
ショートメッセージを送る	157
初期化	187, 201, 211, 277
初期化コマンド	233
初期速度	267
シリアルコネクタ	40
シリアルポート	227
シリアルポートドライバ	230
信号線	
CD 信号	200, 202
DR 信号	200, 202
ER 信号	200, 202
信号線の状態	202
信号線の制御	200
信号線の設定	179
診断情報表示	317

す

スクリプト	268
ステイルスコールバック	146, 147, 180, 182, 199, 343

ストップビット	237
スループット BOD	144, 145, 179, 199, 278

せ

生成源表示	186, 318
製造番号	30
製品仕様	324
セカンダリ DNS	60, 69, 268
セキュリティ	210
接続機器	45, 56, 68, 174, 206
接続するが通信がおかしい	233
接続の確認	42
切断	63, 73, 259, 269
切断理由	46, 185, 202, 315
設定	
Macintosh	53, 65
Windows98/Windows95	52, 54
WindowsNT4.0	52, 262
電話機	51, 74
設定記入シート	334
設定の控え	334
設定項目一覧	206
設定スイッチ	31, 327
設定手順	51
設定の依頼	241
設定の初期化	187, 201, 211, 277
セットアップサービス	242
選択キャッチホン	86, 109, 210
選択着信転送	208
前面	28

そ

増設した AtermRS20	21, 23
増設した PHS	21, 23
増設登録	25, 88, 242

た

ターミナルアダプタ	282
ダイヤルアウト	231, 265
ダイヤルアップアダプタ	254
ダイヤルアップサーバー	267
ダイヤルアップネットワーク	231, 252
ダイヤルアップネットワーク アイコン	252
ダイヤルアップの設定	252
ダイヤルアップルータ	343
ダイヤルイン	343
ダイヤルインサービス	66, 74, 87, 125
ダイヤルイン番号	57, 67, 80
ダイヤル桁間タイマ	46, 175, 182, 195, 196, 206, 219

ダイヤル種別	33, 38
ダイヤル方式	33
ダウンロード	319, 322
単 3 アルカリ乾電池	36, 37
短縮・識別番号	193, 208
短縮ダイヤル	86, 91, 184
端末審査協会	33
端末番号の送出方法	175

ち

着信音	219
着信したメールをみる	161
着信する電話機に優先順位をつける	103
着信情報表示	203
着信転送	87, 115, 120, 128, 191, 209, 343
着信転送先アドレス	208
着信転送先選択	192
着信転送先番号	192
着信転送設定	176, 192
着信転送元番号	192, 208
着信番号	174, 178, 181, 206, 209
着信判定要因	186
着信ポート	183, 206
着信履歴	86, 101, 102, 272, 273
着信履歴先発信	86, 101, 102, 273
着信履歴先発信する電話機の指定	272
着信履歴データの消去	102
着信履歴表示	86, 101, 102, 272

つ

通信状態の表示	311
通信状況の表示	186, 202
通信速度の切替	278
通信中着信通知サービス	151
通信中転送	87, 116, 128, 177, 191, 208
通知 / 着信番号	196
通話・通信を終了したとき	233
通話受話音量調節	86, 99, 206
通話料金	46, 186, 202

て

定型文コード	166
ディスプレイ表示	310
ディスプレイ表示の切替	314
停電対策	36
停電時の動作	174, 234
停電モード	195, 208
底面	31

データセツダン	232
データ着信モード	182, 197
データ通信	182
データ通信ができない	228
データ発信モード	182, 197
データビット	237
データポート	30, 135, 142, 178, 198, 224, 225, 312
データポートへの UII 通知モード	180
でかけるボタン	28, 118, 225
でかけるボタンロック	118, 312
でかけるボタンロック解除	118
適合マーク	33
デュアルリンクワイヤレス通信	86, 100, 137, 225, 343
テレホン UII メール	152, 162
テレホン遊遊メール	152, 162, 164
電源	41, 216
電源コード	30, 41, 216
電源スイッチ	30, 42, 216
電源を切ったとき	233
電子メール	150, 180, 216
電子メールアドレス	169
電子メールソフト	26
電子メール着信通知	150, 158, 180
転送	
着信転送	87, 115, 120, 129, 191, 209
内線転送	87, 114, 208
転送 / 通知モード	176
転送開始モード	177
転送条件	176
転送設定	176
転送トキ	176, 192, 343
電池	36, 37, 234
電池カバー	30, 36
電池ホルダー	30, 36
電波	22
添付品	27
電話が使えない	218
電話機	33, 38, 74, 208, 218
電話機接続コード	34, 38
電話機の接続	38
電話機の設定	74
電話着信転送モード	120
電話帳	184
電話番号設定	57, 174, 183
電話番号テーブル	174, 183
電話番号転送先メールアドレス	208
電話番号の登録	66, 76
電話番号の割り当て	82
電話を受ける	47, 103
電話をかける	46, 90
電話を使う	86
電話を転送する	87, 114

と

同期	343
同期・非同期	21
同期 64k アクセスポイント	21
同期アクセスポイント	261
登録機器	181, 206
トキサービス	176
トーン (PB)	33
特定の電話番号の呼出音をかえる	108
時計表示	44, 314
ドメイン・ネーム・サーバー	60, 69, 230, 258, 268
ドメインネームの登録	168
取扱説明書	27

な

内線指定番号	175
内線通話	86, 191, 208
内線データ通信	21, 139
内線転送	87, 114, 191, 208
内線番号	25
なりわけ	87
なりわけキャッチホン	86, 109
なりわけサービス	129
ナンバー・ディスプレイ	87, 129
ナンバー・リクエスト	87, 129

に

ニカド電池バック	36, 37
ニカド電池バック接続用コネクタ	30, 36
日本電気フィールドサービス	280
認証と暗号化の原則	268
認証番号	30

ね

ネームサーバーアドレス	258, 268
ネットスケープ・ナビゲータ	26, 63, 73, 259
ネットワーククライアント	254
ネットワークの設定	254
ネットワークプロトコル	254, 266

の

ノイズ対策	40
ノートパソコン	261

は

バージョンアップ	319, 322
バージョン情報	319, 322
ハードウェアフロー制御	267
ハイパーターミナル	236, 281

背面	30
箱の中身	27
パスワード	62, 71, 232
パソコン信号線	186
パソコンの接続	40
バックライト設定	212
発信ポート	205
発信者通知番号	75, 79, 86
発信者番号指定	86, 94
発信者番号通知	68, 86, 92, 174, 178, 181, 197, 206
発信番号表示	202
発信時アドレス表示	208
話し中に別の電話を受ける	104
パリティ	237
番号の送出方法	175

ひ

ピアフデータ通信	136
ピクトグラム	29, 314
日ごろのお手入れ	9
ビッグロープ	26, 60, 151, 217
日付・時刻の設定	44
日付表示	44, 314
ビット / 秒	237
非同期 / 同期 PPP 変換	142
非同期 57.6k アクセスポイント	21
非同期アクセスポイント 表示	261
INS ナンバー・ディスプレイ表示	313
お出かけ設定表示	312
通信状態表示	311
秘話回路	219
品名ラベル	30

ふ

ファームウェア	319, 322, 343
ファイルの共有	140
ファクス / モデムの接続	38
ファクス通信ができない	225
ファクスの接続	38
ファンクションボタン	28, 102, 216, 276
付加サービス	86
不揮発性メモリ	68
複数の電話番号を使う	26
フッキング	96, 106, 116, 344
フッキング検出タイマ	98, 175, 195, 206
プライマリ DNS	268
ブラウザソフト	26, 63, 64, 73, 259
フラッシュメモリ	190

フラッシュモード	87, 122
ランチ接続	33, 344
プリインストール	344
プリンタポート	40
フレックスホン	87, 96, 104, 116, 128, 325, 344
フロー制御	237
プロトコル変換モード	136, 182, 261, 344
プロバイダ	26, 59, 72, 258, 269
プロバイダを設定する	255, 266

へ

別売オプション	330
---------	-----

ほ

ボイスワープ	87, 127
ボイスワープ・セレクト	87, 127
ボイスワープ設定	177
ボイスワープ転送モード	87, 121, 209
ボイスワープ番号設定	210
訪問サポート	241
ホームテレホン	329
ホームネットワーク収容 TA	239
ホームページを見る	259
保護シート	29
保守契約	244, 248
保守区分	248
保証書	27, 244
本書について	10

ま

マイプライベート着信	86, 110, 185, 193, 210
待ち受けモード	25
マニュアル BOD	278

み

ミキシングモード	97
----------	----

む

無線端末識別用 ID 番号	30
無線ポート	58, 81, 125, 177, 196, 206
無線ポートの設定	181
無線ポート呼出	208
無通信監視タイマ	148, 179, 199
無鳴動着信機能	226

め

迷惑電話の登録	185, 193
迷惑電話防止	86, 111, 193
メーラー	26
メールオプション	150
メールサービス	150
メール着信通知サービス	154, 159, 216
メール通信設定	155
メールを送信する	157, 161
メッセージの作成	165
メニュー画面	55

も

文字コード	165
モジュラコンセント	24
持ち込み修理先一覧	245
モデム	33, 227, 249, 262
モデム・ダイヤルイン	86, 112
モデム情報	249, 251, 262
モデム通信	181, 226
モデム通信ができない	226
モデム定義ファイル	231
モデムの種類	61, 70, 265
モデムの設定	70
モデムポート	40, 70, 227

ゆ

ユーザID	62, 230
ユーザ登録	64, 73, 270
ユーザ登録ガイド	27
ユーザ名	62, 232
ユーザ間情報通知	150
優先着信ポート	176, 191, 208
優先着信ポート指定	86, 103, 191
ユーティリティ	50
遊遊メール	150, 158

よ

用語集	341
-----	-----

ら

落雷プロテクタ	40, 41, 330
らくらくウィザード	50, 54
らくらくテレホン設定	50, 239
らくらくバージョンアップ	50, 227
らくらくユーティリティ	50, 65, 173, 190, 227
ランプ	29

り

リザルトコード	229, 282, 283, 289, 307
リソースBOD	144, 179, 199
リバーススイッチ	43, 217
リバースパルス	175, 195, 206, 344
リモートアクセス	71
リモートアクセスサービス	264,
リモートステーション	25, 100, 138, 181, 224, 225, 344
リモートステーションが使えない	223
リモートステーションで	
インターネットに接続する	232
リモートステーションで	
データ通信をする	138
履歴先発信	86, 101, 102, 277
リンク削除	145
リンク追加	145

る

累積料金初期化	186, 276
累積料金表示	186, 202, 214, 234, 275
留守番電話機	221

れ

レイヤ	43, 186, 202
-----	--------------

ろ

ローゼット	33
ロードモードA	228

わ

ワークステーション	344
ワイヤレスセット	22
ワイヤレスデータ通信	136

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの  必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。



この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。